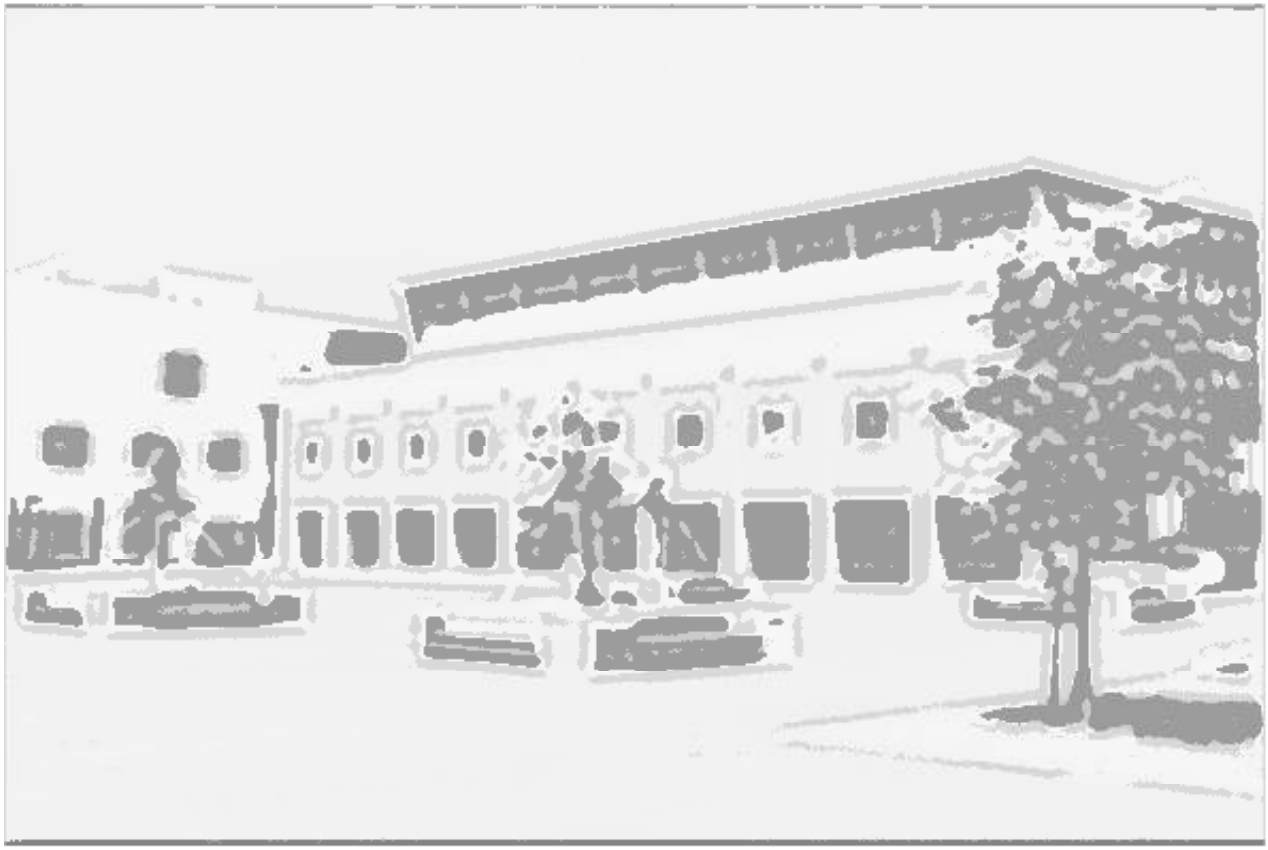
令和元年度

研　究　集　録

第51号



秋田県立大館国際情報学院　中 学 校
高等学校

目　次

目次　2

中学校研究集録

１．第１回指定訪問の記録（道徳科）　４～１４

２．第２回指定訪問の記録（英語科）　１５～１９

３．北教育事務所長訪問の記録　２０～３２

４．各教科経営反省　３３～３８

高等学校研究集録

１．校内研修の記録　４０～７１
　授業アンケート　４１～４６
　研究主題・指導計画　４７～５５
　１０月２１日の授業研修　５６～６２
　各教科の成果と課題　６３～７１

２．法定研修の記録　７２～８９
　初任者研修の記録　７２～７５
　中堅教諭等資質向上研修の記録　７６～８９

中学校
研究集録

令和元年度

第１回指定訪問研究会
（特別の教科　道徳）

研究主題

中高一貫教育校の特色あるキャリア教育を通して，
主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成

＜体育祭＞
中高合同競技　借り人パン食い競争

＜１年生　勉強合宿＞

＜全校花壇作業＞

＜２年生　オリンピック教室＞

令和元年７月９日（火）

秋田県立大館国際情報学院中学校

《研究会日程》

10:40～11:30　研究授業（１年２組　道徳）
11:40～12:30　研究授業（３年１組　道徳）
12:35～13:15　昼食・指導主事まとめの時間
13:20～14:10　「教育課程の編成や実施状況」と「学力向上に向けての具体的な取組」についての説明
14:40～16:10　授業研究会

《研究授業》

教科等	授業者	単元・題材・資料等	授業教室	研究会会場	指導者
道　徳	杉沢　美穂	自主・自立・自由と責任 「裏庭での出来事」	１年２組	会　議　室	鈴木正樹 指導主事
	木次谷優和子	自主・自律・自由と責任 「思い出のオムライス」	３年１組		

《授業研究会》

【協　議　主　題】
「考え，議論する道徳」への転換に向けた授業展開と評価の在り方

【協議の主な内容】
・発問や発問構成は，道徳的価値を自分との関わりで捉え，自己への問いかけを深め，自分のよさや可能性，人間としての生き方について考えを深めることにつながったか。
・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取るための具体的な場面及び手立ては適切だったか。

【研究会次第】　　司会：髙　橋

1　はじめの言葉
2　指導者紹介・職員自己紹介
3　教科経営についての説明（道徳主任）
4　協議の仕方・視点の説明（司会）
5　授業者から
6　質疑応答
7　協議
8　指導助言
9　教頭から
10　終わりの言葉

第１学年２組　道徳学習指導案

日　時　令和元年７月９日（火）３校時
場　所　１年２組教室
指導者　杉沢　美穂

１　主　題　　誠実な生き方　（指導内容Ａ（１）　自主，自律，自由と責任）

２　資料名　　「裏庭での出来事」（出典：明日への扉１年　Gakken）

３　主題設定の理由

(1)　ねらいとする価値について

中学生という時期は，自分で考えて行動することができるようになる年頃ではあるが，時として周囲を気にするあまりに他人の言動に左右されたり，自分の行為がどのような結果をもたらすのかを考えずに行動したりすることもある。したがって，それぞれの場面に応じて何が正しく，何が誤りであるかを自分で判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。また，その結果に責任をもった行動をすることについて考えることは，今後，様々な価値観をもつ人々と共生していくことが今まで以上に求められる生徒たちにとって意義のあることだと考え，本主題を設定した。

(2)　生徒の実態について

新しい仲間と共に中学校生活をスタートさせ，３ヶ月が経過した。学級活動や部活動などの場面において，仲間と協力しながら積極的に活動に取り組み，中学校生活にも少しずつ慣れてきた。中学校でのルールを理解して生活しようとしている生徒が多い。

Ｋ（ココロ）Ｊ（充実）アンケート（５月実施）では，どの項目も概ねよい評価であったが，他の項目と比較して低い値を出していたのは，「自主，自律，自由と責任」であった。現在の生徒の生活の様子は，新しい仲間と仲良くしたいあまり，周囲を気にしたり，仲間の言動に左右されたりして誠実な行動をとれない生徒も見られる。また，よりよく生きたいと思いながらも，自分で適切な判断ができず安易な方向に流されてしまいがちな生徒もいる。そこで本教材を通して，自ら考え，判断し，誠実に行動することの価値と大切さを考えさせたい。

(3)　指導について

本時は，裏庭でボール遊びをしていた３人の言動を通して，ねらいに迫る。裏庭でボール遊びをしていた３人のうちの一人が，猫に狙われていた鳥のひなを助けようとしてボールを投げてガラスを割ってしまい，それを先生に報告に行っている間に，残りの二人が遊んでいて，またガラスを割ってしまう。そのことを正直に先生に伝えなかったので，３人の関係がこじれてしまうという内容である。

そこで，本教材を通して，正しいことは分かっているが，それを行おうとすると友情に傷がつくかもしれないという主人公の葛藤に共感させたい。特に，正義と友情のはざまで悩み，葛藤する健二の姿を通して，このようなことは，私たちの生きる現実の社会の中でも起こり得ることに気付かせたい。さらに，同じような場面に遭遇したときに，どういう行動を取るべきかを考え，さらにその裏付けとなる心情を考えることで，良心に従い誠実に実行することの価値を理解し，実現しようとする心情を育てたい。

４　主題とキャリア教育との関わり

健二の立場に自分自身が立ったときの思いを考え，自分の立場を明らかにして，学級で意見を交わす活動は，多様な意見に触れ，多面的・多角的に考えることができ，基礎的・汎用的能力，特に人間形成・社会形成能力の育成につながる学習場面である。主体的に話合いができるように，揺さぶる発問や批判的な発問を取り入れ，深く考えさせていきたい。

ＫＪキャリア教育アンケート（５月実施）では，自己理解・自己管理能力の項目「不得意なことや苦手なことでも，自ら進んで取り組もうとしていますか」の学級平均ポイントが２.９６（４ポイント中）と，他の項目に比べて低かった。本題材において，仲間との関わりの中で，周囲に引っ張られず，自らを律し，責任ある行動をとろうとする生徒の気持ちの変化に着目させていくことは，自分自身の日常の小さな行為にも責任をもつことが大切であることに気付き，自主的・自律的な考えをもつことで適切な判断ができるようになるなど，キャリア教育に関する諸能力を身に付けることにつながると期待される。

5　本時の学習指導

(1)　ねらい

主人公の気持ちや行動について考えたり，自分だったらどう行動するかを話し合ったりする活動を通して，良心に従い自ら考え判断して，誠実に行動しようとする心情を育てる。

(2)　展開　　主発問　　主な発問　　評価　　【　　】キャリア教育の視点

	学習活動　主な発問と予想される生徒の反応（学習形態）	教師の支援および評価
導入8分	1　自分の生活を振り返り，問題意識をもつ。（一斉） 正しいと分かっていても行動できなかった経験はありますか。	○アンケート結果を提示して，本時の資料への導入を図る。
展開32分	2　資料を読み，主人公の気持ちや行動について考える。（一斉） 雄一が先生に謝る姿を見たとき，健二はどんな気持ちだったでしょう。	○資料を配付し，範読CDを聴く。 ○健二の立場で考えられる心の内を出させる。
	・雄一に悪いことをした，ごめん。 ・一枚も二枚も同じかな。 ・正直に言いたいけど・・・ ・大輔がああ言ったし，どうしよう。	
	午後の授業の間，健二は何を考えていたのでしょう。	○悩み葛藤があることをおさえるために，揺れ動く心を可視化する。
	・あれで本当によかったのかな。 ・雄一に嫌われてしまうかな。 ・自分って嫌なやつだ。 ・言えなかったけど，雄一は友達だから分かってくれる。 ・自分が雄一のせいにしたわけじゃないし。	
	3　もし自分ならどうするかを考え，発表し合う。（個→ペア→全体） あなたが健二の立場なら，先生に言いに行けますか。	○時間を十分に確保し，学習シートに書かせることで，自分の考えをまとめ，発表できるようにする。 ○自分と友達の判断や考えの差が分かるように，心情円盤を使う。 ○判断の理由を聞き合ったり，新たな問いを投げかけたりすることで，深く考えさせるようにする。 ○主体的に話合いができるように，揺さぶる発問や批判的な発問をする。 **【多様な意見に触れ，多面的・多角的に考える力】**
	○行ける ・正直に話すべきだから。 ・ごまかすのはよくないから。 ・自分のしたことだし，謝るべきだから。 ○行けない ・もう済んだことだから。 ・友達との関係を悪くしたくないから。	
終末10分	4　これからの自分を考え，発表し合う。（個→全体） ・自分が正しいと思ったことを，勇気を出して行動に移せるようにしたい。 ・これまでは，友達との関係もあるからと言い出せないことも多くあったけど，これからは自分で考えて行動していきたい。 ・正しいことを言わずに，間違ったままでいると，あとから大変になると思うので，言いにくくても，言えるようにしていきたい。	○書かせる活動を通して，自己内対話とし，自分の考えや気付いたことを深める。 話合いやこれまでの自己を振り返って，良心に従い自ら考え判断して，誠実に行動しようとしているか。（ワークシート・発表） ○多くの人に発表させ，他の人の意見を聞くことで自分の考えを深められるようにする。

(3)　授業改善の視点

・発問や発問構成は，道徳的価値を自分との関わりで捉え，自己への問いかけを深め，自分のよさや可能性，人間としての生き方について考えを深めることにつながったか。

・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取るための具体的な場面及び手立ては適切だったか。

(4) 個への対応

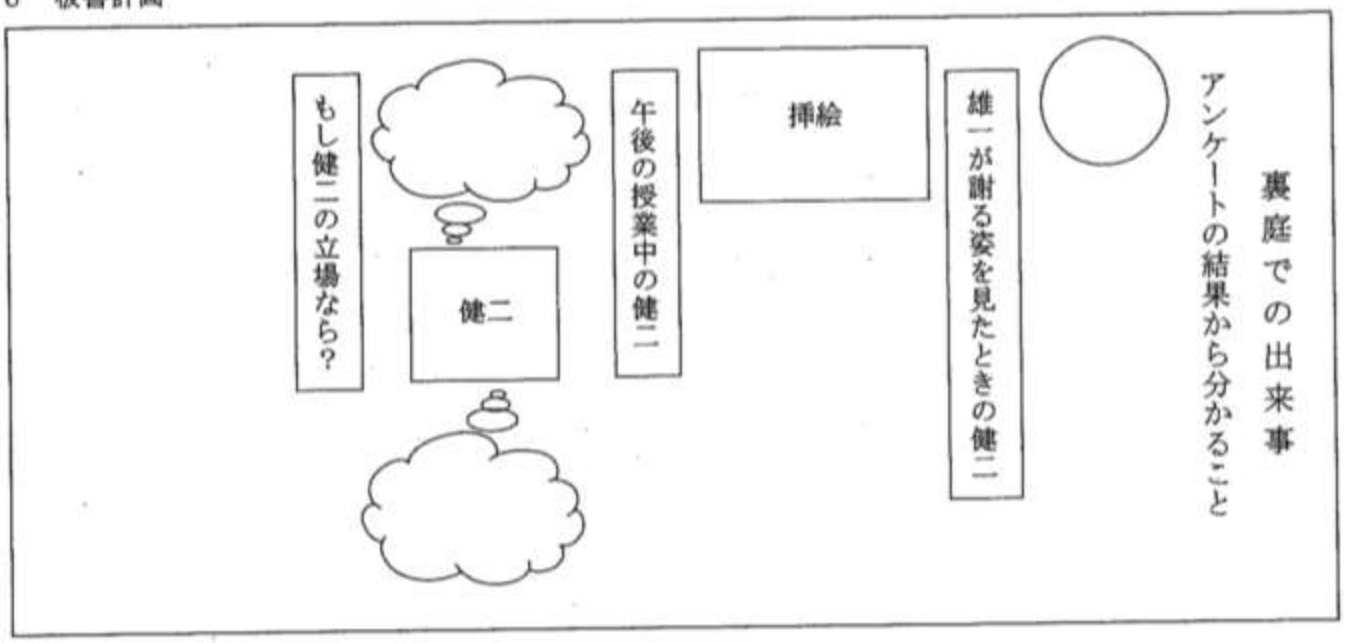
・W．K

自分の行為がどのような結果をもたらすのかを考えずに，自分がやりたいことや楽しいことを優先してしまいがちで，誤魔化したり，今やるべきことを後回しにしたりしたことで，注意されることが何度かあった。主人公の気持ちや行動について考えたり，自分だったらどう行動するかを話し合ったりする活動を通して，それぞれの場面に応じて何が正しく，何が誤りであるかや，望ましい言動を自分で考え，判断することが大切であることを改めて考えさせたい。また，考え、判断した望ましい行動を実行しようとするきっかけにしたい。

・S．K

友達の言動に左右されたり，自分の行為がどのような結果をもたらすのかを考えられなかったりして，自分で適切な判断ができず安易な方向に流されてしまいがちである。主人公の気持ちや行動について考えたり，自分だったらどう行動するかを話し合ったりする活動を通して，自分自身の日常の小さな行為にも責任をもつことが大切であり，人付き合いには誠実さが大切であることを再認識し，実行しようとするきっかけになると考える。

6 板書計画



板書計画

生活自己評価チェックから
△時間
○起床
△就寝

釣りざおの思い出

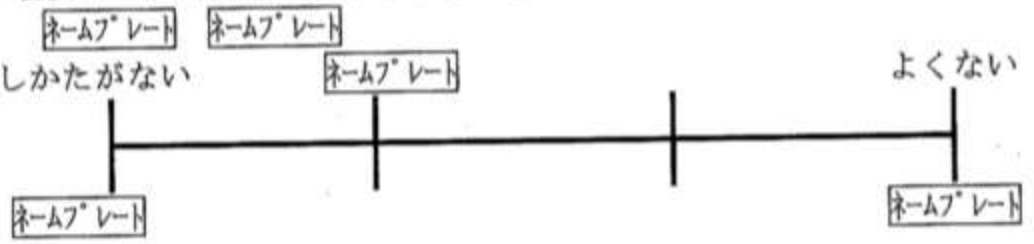
わたし
釣りのことしか考えていない
←
・どうしよう、お母さんはきっと怒っているだろう。
・なんで、時間に気付かなかったのだろう。
・早く帰らないと。

・今さら帰ったって、もう遅い。
・まだ釣りたいのに。
・大漁だからお母さん、喜んでくれるかも。

自分たちの生活をよりよくするためにはどうしたらよいか
・欲望に負けない
・約束は守る
・周りの人のことも考えて行動
・先のことを考えて行動
・我慢

ホワイトボード

最後の一匹を釣ったらやめようと思った主人公の行動をどう思いますか



・時間に間に合わない
・どうせ怒られる
・ちょっと遅くても同じ
・大漁だから

・ちょっとでも早く帰るべき
・気付いた時点で
・親が心配する

座席表

黒　板

I・M	O・A	K・F	S・I	H・R	M・M
O・Y	O・R	K・A	S・S	H・S	W・K
	K・R	K・A	N・R	F・K	

道徳ワークシート

裏庭での出来事

番　名前

あなたが健二の立場なら、どうしますか。

メモ（友達の考えなど）

◎振り返り（当てはまるものに丸印をつけましょう。）

	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	思わない
友達の意見を聞いて、自分にない考えに気付いたり、なるほどと思ったりすることがあった。				
主人公の気持ちや行動について、「もし自分だったら」と考えた。				
これまでの自分がどうだったかを思い出し、自分について考えた。				
これからどのように生活していけばよいかを考えた。				

第３学年１組　道徳学習指導案

日　時　令和元年７月９日（火）第４校時
場　所　３年１組教室
指導者　木次谷　優和子

1　主題名　　誠実な心と責任ある態度　（指導内容Ａ（１）自主，自立，自由と責任）

2　資料名　　「思い出のオムライス」（出典：明日への扉３年　Gakken）

3　主題設定の理由

(1)　ねらいとする価値について

指導内容Ａ－（１）では「自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと」をねらいとしている。このことを踏まえ，責任を他に転嫁することなく，自らの規範意識を高め，自らを律する生き方に関する内容である。中学生になり，自我の自覚とともに自由を求める傾向が強くなり，社会規範や自身の価値観を捉え直そうとする時期でもある。一方で，自由の意味を履き違え，社会の規範を顧みない生活を送ったり，結果を深く考えないまま，無責任な言動をとったりしがちである。自分の利益のために不誠実なことをすることが，自分の価値を落とすことを理解し，自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚して，人間としての誇りをもった，責任ある行動がとれるようになることが大切であることに気付かせたい。そうすることで，良心的な生き方を選択しようとする判断力を育てることができると考え，本主題を設定した。

(2)　生徒の実態について

男子８名女子１８名，計２６名の学級である。明るく活発で個性的な生徒が多く，休み時間はにぎやかである。学校行事などでは，団結力を発揮し，全体のことを考え，お互いに協力しながら一つのことを成し遂げることができる。一方で，その時の気分によって態度を変えたり，やりたくないことや苦手なことには向き合うことができずに，何かと理由をつけて逃げ出そうとすることがある。５月に行ったＫ（ココロ）Ｊ（充実）アンケートにおいても，自分の行動を自分で考え，責任ある行動がとれているかの項目の評価が低く，クラスの実態が顕著に表れている。自分でやらなければならないことも人に任せてしまったり，最後まで根気強くやり遂げたりすることを苦手にしている生徒も多く，授業を通して，良心的な生き方をするためには，誠実な心と責任ある行動が大切であることに気付かせたい。

(3)　指導について

本時は，小学３年生だった「私」が，熱を出して学校を休み，そのときに出前でとってもらったオムライスの味が忘れられず，熱があると母に嘘をついて４日目も休み，オムライスをとってもらうという「私」の話を通して，ねらいに迫る。２日目，３日目と休んだときは笑顔でオムライスを注文してくれた母が，４日目には無言で仕事に出かけ，帰宅後に半分残したオムライスを畳に投げ出す。天使のように思えた母が一変した理由を考えるとともに，怖さ以上に悲しい目をしていた母の姿を通し，母が「私」に伝えたかった，自分の利益のみを追い求めるのではなく，誠実に生きることによって人間としての誇りをもつ良心的な生き方について考えることができる判断力を養いたい。

中学３年生になり，人前で発表することにも慣れてきたが，授業中の反応は薄く，人任せにする場面が見られる。授業では，個の意見をもつ時間をしっかりと確保し，グループ活動を通して自信をつけ，積極的に全体の場で発言できる雰囲気をつくり，自分の言動に責任をもつことの大切さに気付かせたい。

4　主題とキャリア教育との関わり

話し合いの内容が分かるように他者の意見を聞き取り，他者の意見のよいと思ったところや感心したところを発表し合う活動は，基礎的・汎用的能力，特に人間形成・社会形成能力の育成に関わる学習場面である。

ＫＪキャリア教育アンケート（５月実施）での，自己の動機付けや主体的行動に関わる評価が低いという実態を受け，本題材における，嘘がばれないか心配で心臓がバクバクしたときの「私」の気持ちや，嘘を聞いたときの母の思い，嘘を見破った母がどうしてあれほど怒ったのかなどを考える活動は，自分や社会に対しての責任ある行動をとることが大切であることに気付いたり，これまでの自分の生活や行動，発言を振り返って，見直したりすることにつながり，キャリア教育に関する諸能力を身に付けることができると期待される。

(3)　授業改善の視点
・発問や発問構成は，道徳的価値を自分との関わりで捉え，自己への問いかけを深め，自分のよさや可能性，人間としての生き方について考えを深めることにつながったか。
・生徒の学習状況や道徳性に関わる成長の様子を見取るための具体的な場面及び手立ては適切だったか。

(4)　個への対応
・Ｉ．Ｍ
楽しいことを優先してしまいがちで，１年次や２年次の前半は，勉強をしたと嘘をついてスマートフォンを使いすぎていた。このことで母親に怒られることが多かったが，本人はなぜ母がここまで怒るのかの意味を理解できないまま，反抗を続けていた。３年生になった今も，やりたいことを優先してしまい，休日の過ごし方について母親とけんかになることもある。母親がどういう気持ちで叱るのかという思いに気付き，自分の行動を見直して，母親とも良好な関係を築いていくことができるきっかけにさせたい。

・Ｓ．Ｒ
怒られることや嫌われることを恐れ，家族や友達に嘘をつくことが多い。事前アンケートで，嘘をつくことを面白いと感じており，嘘をつかれた人の気持ちや周りへの影響を考えることができていない。友達についている嘘の内容も，つかなくてもよい内容が多く，だまされた友達の反応を見て楽しんでいる様子がうかがえる。物語中の母の言葉の意味をかみしめた「私」の様子から，人づき合いには誠実な心が大切であり，自分自身の言動に責任をもって生活していこうという気持ちに気付くきっかけにさせたい。

6　板書計画

5　本時の学習計画

(1)　ねらい

正しい判断を選択し行動することに価値があることを理解し，良心的な生き方を選択しようとする判断力を育てる。

(2)　展開　　主発問　　主な発問　　評価　　【　　】キャリア教育の視点

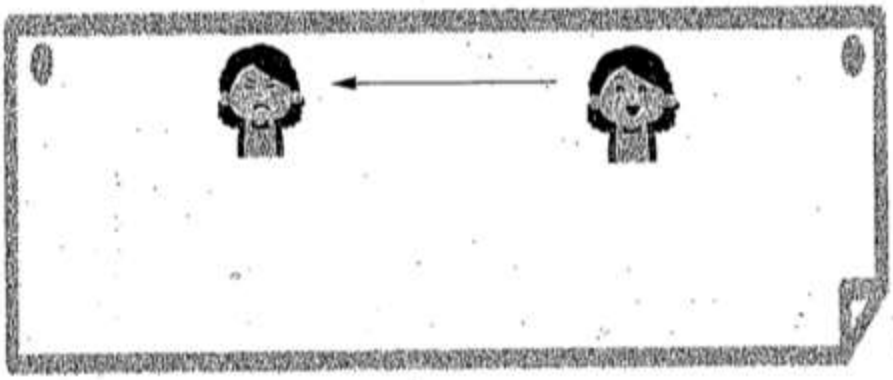
	学習活動　主な発問と予想される生徒の反応（学習形態）	教師の支援および評価
導入（5分）	1　事前アンケートの結果を紹介し，ウソをついた経験やそのときを気持ちを想起する。（一斉） ・みんな嘘をついたことがある。自分だけではなかった。 ・バレなければ嘘をついてもいい。 ・いつかバレてしまうのではないかと不安だった。 ・見事にだまされておもしろかった。	○どんな嘘をついたのかを紹介することで，誰しもが，嘘をついてしまうことがあることに共感させる。
展開（35分）	2　欠席４日目の朝の「私」の気持ちを考える。（一斉） 欠席４日目に，母に嘘をついてオムライスを頼んだときの私は，どんな気持ちだっただろう。 ・またおいしいオムライスが食べたい。 ・ずっと休んでいればオムライスが食べられる。 ・嘘だとばれないだろうか。 ・お母ちゃん，だましてごめんね。	○資料は，Ｐ４６の１７行目までを配布し，範読ＣＤを聴く。
	3　母の表情が次第に変化していった理由を考える。（一斉） ・最初は具合が悪くて心配していたが，休んだのが嘘だと気付いたから。 ・オムライスのために，平気で嘘をつく娘にあきれている。 ・せっかくのオムライスを半分残してもったいない。	○母親の心情の変化が分かるように板書をする。
	4　母の言った言葉の意味を考え，発表する。（個→グループ→一斉） 母ちゃんが「うそつきは神様が許しても母ちゃんは許さん」と言ったのはどうしてだろう。 ・あまりにも自分勝手だと感じたから。 ・自分の欲望を満たすための嘘だった。 ・母の気持ちを考えていなかったから。 ・母からの信頼を失ってしまったから。	○付箋に，母の気持ちを想像して記入させる。 ○なぜ，そう感じたのかの理由を付け加えながら，グループでそれぞれの気持ちを整理していく。 【他者に働きかける力】 対話したことを参考にして，自分の意見を深めたり見直したりしていたか。（発言，シート） ○キーワードを書いたホワイトボードを掲示する。
終末（10分）	5　今日の学習を振り返り，学んだことを記述する。（個） ・自分の気持ちを通すために嘘をつくと，いろいろな人を嫌な気持ちにさせてしまう。 ・自分さえよければいいと思っていたが，嘘をつかれた人の気持ちも考えなければいけない。 ・嘘をつくと，信頼がなくなる。誠実な気持ちを忘れないでいきたい。	誠実な心と責任ある行動が人間として大切なことに気付き，良心的な生き方をしようとしているか。（シート，発言）
	6　「あの言葉の意味」を確認する。	○手紙風に紹介する。

2019/07/09

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

☆アンケート結果から思うこと

『思い出のオムライス』



自分の気持ちに当てはまるものに○をしてください。	とても	ある	あまり	ない
1 友達の意見を聞いて、自分にない考えに気付くことがあった。				
2 友達の意見を聞いて、なるほどと思ったりすることがあった。				
3 友達の意見を聞いて、自分の考えが変わったことがあった。				
4 主人公の気持ちや行動について、「もし自分だったら」と考えた。				
5 今までの自分がどうだったかを思い出し、自分について考えた。				
6 これからどのように生活していけばよいのかを考えた。				

令和元年度

第２回指定訪問研究会
（英語科）

研究主題

**中高一貫教育校の特色あるキャリア教育を通して，
主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成**

＜３年＞
修学旅行
　外国人との交流
　とんぼ玉づくり体験

＜２年＞宿泊体験・国際交流員との交流

＜１年＞職場体験・枝豆の収穫

令和元年10月９日（水）

秋田県立大館国際情報学院中学校

《研究会日程》

１１：４０～１２：３０	研究授業（１年３組）
１２：３０～１３：１０	昼食
１３：３０～１３：５０	英会話の時間（2年部）
１４：００～１５：００	指導主事まとめの時間
１５：１０～１６：４０	授業研究会

《研究授業》

教科等	授業者	単元名・活動名	場所	指導者
英語	成田 透 木次谷 滋美 Arianne Solomon	Unit 6 オーストラリアの兄	1年3組	八田浩彦 指導主事
英会話の時間	本多牧子 2年部職員	英語劇をしよう	2年1組 多目的ホール2 2年2組	

《授業研究会》

【協議主題】

キャリア教育の視点を生かした，主体的・対話的で深い学びのある授業の在り方について

【協議の主な内容】

・主体的な学びを促す学習過程であったか。

・伝えたいことを見いだし，英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする手立てはどうであったか。

【研究会次第】 司会：高橋　記録：木次谷優　場所：会議室

1 はじめの言葉
2 指導者紹介・職員自己紹介
3 教科経営についての説明（英語科主任）
4 協議の仕方・視点の説明（司会）
5 授業者から
6 質疑応答
7 協議
8 指導助言
9 教頭から
10 終わりの言葉

第１学年３組　英語科学習指導案

期　日　令和元年１０月９日（水）
授業者　成田　　透（Ｔ１）
　　木次谷滋美（Ｔ２）
　　Arianne Solomon（ＡＬＴ）
場　所　１年３組教室

１　単元名　　Unit 6　オーストラリアの兄

２　単元の目標
（１）自分と相手以外の人の情報を積極的に伝えたり、尋ねたり、答えたりしようとしている。
（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
（２）自分と相手以外の人について紹介したり、尋ねたり、答えたりすることができる。
（外国語表現の能力）
（３）自分と相手以外の人についての紹介を聞いて、その情報を聞き取ることができる。
（外国語理解の能力）
（４）三人称単数現在形の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。
（言語や文化についての知識・理解）

３　単元と生徒
（１）単元について
本単元は、咲がスピーチでオーストラリアにいる兄についての生活ぶりを紹介し、その内容についてアレックスが質問をしたり、さらにオーストラリアに生息する動物について咲がベッキーと対話したりする、という展開になっている。
言語材料としては、一般動詞の三人称単数現在形の肯定文、疑問文とその応答、否定文などが扱われる。いずれも、第三者を紹介する場面で用いられる重要な文法事項である。

（２）生徒について
男子７名、女子１７名の学級である。男女の仲もよく、自分の考えや質問など言いやすい雰囲気の学級である。その反面、集中力に欠け、指示がなかなか伝わらない場面も見られる。学習に対しては、真面目に取り組むことのできる学習集団である。
これまでの英語の授業においては、ペア活動を多く取り入れることで、誰とでも話しやすい雰囲気をつくってきた。

（３）指導について
本単元では、身近な実在の人、または発表者がよく知っている人やものなどを紹介するスピーチという場面を授業で活かしながら言語活動を展開したい。スピーチでは口頭説明だけではなく写真などを用意した方が情報が伝わりやすいことや、スピーチが終わった後に聞き手が質問をすることで、さらに情報を得られるということなど、実生活の中でも活かせる教材である。また、メモの取り方や必要性にも触れながら、グループでの発表や質問の受け答えを行い、もう一度自分の発表内容を振り返ることで、さらに詳しい内容の発表や質問の受け答えをできるようにするなど、柔軟な対応をしながら、小さな即興性のあるやりとりを意識して活動に取り組ませたい。

（４）単元とキャリア教育との関わり
１学期に行ったＫＪキャリア教育アンケートでは、本学級は概ね良好な結果であったが、「分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。」との問いに対する肯定的回答が、他の項目よりも若干低めであった。そこで本単元では、質問して情報を集めることで解決できる場面や、興味のあることについて質問したり、答えたりする場面を設定している。

4　単元の指導・評価計画

時間	学習内容	学習目標	観点別評価の規準（評価方法：観察、発表、ワークシート） ◎は主要評価内容				キャリア教育の視点から身に付けさせたい能力・態度
			コミュニケーションへの感心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
1	Unit6-1 本文の内容理解	友達や家族などについて紹介することができる。			○人について紹介する文を読んで、その内容を正しく理解することができる。 （ワークシート）	◎三人称単数現在形の肯定文の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 （ワークシート）	
2	言語活動		○友達や家族などの情報を伝えようとしている。（観察）	◎友達や家族などについて話すことができる。 （発表）			○人に正しく情報を伝える力
3	Unit6-2 本文の内容理解	自分と相手以外の人についてたずねたり、答えたりすることができる。			○家族や友達についての対話文を読んで、その内容を正しく理解することができる。 （ワークシート）	◎三人称単数現在形の疑問文の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 （ワークシート）	
4	言語活動		○自分が選んだ人物について質問したり、答えたりしようとしている。（観察）	◎自分と相手以外の人についてたずねたり、答えたりすることができる。（発表）			○分からないことについて尋ねる力
5	Unit6-3 本文の内容理解	自分と相手以外の人が「…しない」ということを説明することができる。			○家族や友達についての対話文を読んで、その内容を正しく理解することができる。 （ワークシート）	◎三人称単数現在形の否定文の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 （ワークシート）	
6	言語活動		○友達の情報を伝えようとしている。（観察）	◎友達の好きではないことやしないことについて説明することができる。（発表）			○人に正しく情報を伝える力
7 本時	Presentation	友達について、三人称単数現在形の肯定文、疑問文、否定文を用いて紹介したり、それについて質問をしたり答えたりすることができる。	○友達について、紹介をしたり、それについて質問したり、答えたりしようとしている。 （観察）	◎友達について、紹介をしたり、それについて質問したり答えたりすることができる。 （発表）			○質問をしたり、情報を収集したりする力

5　本時のねらい（本時７／７）

（１）ねらい

友達について、三人称単数現在形の肯定文、疑問文、否定文を用いて紹介したり、それについて質問をしたり答えたりすることができる。

（２）学習過程

時間	学習活動	形態	教師の支援及び評価			資料等
			T１	T２	ALT	
5	1　Warm-up ・あいさつ ・復習	一斉	・明るく元気よく行う。 ・リズムとテンポを大切にする。	・生徒とともに声を出し、生徒発声を支援する		TV PC
5	2　Target ・教師のデモンストレーションを見て、学習目標の確認をする。	一斉	T1: Hello,everyone. Look at this picture. This is Mr. Takahashi. He is our math teacher. He likes ramen. He doesn't like chashu(roasted pork fille). He plays the piano. Do you play the piano? He doesn't play the guitar. T2: Does he play the Tsuzureko Drums? T1: No, he doesn't. ALT: I like eggs. Does he like eggs? T1: Yes, he does.			人物
			・どんなことを話しているか確認する。	・ポイントを黒板に貼る。		カード
	友達を紹介したり、それについて質問したり答えたりしよう！					
１０	3　Preparation ・友達の情報や紹介する内容をキーワードで付箋にまとめ、練習する。	個	・ポイントを参考にしてキーワードを付箋にメモさせる。 ・既習表現を使って紹介できるよう支援する。			板書ｶｰﾄﾞ 写真 付箋紙 ﾌﾟﾘﾝﾄ
１０	4　Group Activity 1 ・４人１グループで、紹介したり、質問に答えたりする。	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	・教師がそれぞれ２グループを担当し、プリントにメモをとりながら聞いたり、質問したりできるよう支援する。 質問をしたり、情報を収集したりする力			
3	5　Thinking Time ・最初のグループ活動を基に、付箋にキーワードを付け加え、より詳しい内容にする。	個	・付箋を基に最初の活動で得た情報を付け加えながら、より詳しい内容になるように支援する。			写真 付箋紙 ﾌﾟﾘﾝﾄ
１５	6　Group Activity 2 ・新しい４人１グループに分け、友達紹介をする。	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	既習表現を用いて、友達を紹介したり、さらに情報を得るために質問したり答えたりすることができる。（発表）			
	・全体で友達の紹介や応答を共有する。	全体	・生徒の発表や応答から、よかった点を紹介し、次時への意欲を高める。			
2	7　Consolidation ・授業の振り返りをする。次時の予告をする。	個	・友達を紹介するとき、質問したり答えたりするときにどういう表現を使ったか確認する。 ・２回目のグループ活動で、情報を付け加えることができたかどうか確認する。			

（３）授業検証上の視点

①主体的に学びを促す学習過程であったか。

②伝えたいことを見いだし、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする手立てはどうであったか。

令和元年度
北教育事務所長学校訪問
授業参観資料

＜３年＞　修学旅行
外国人との交流
とんぼ玉づくり体験

＜２年＞宿泊体験・国際交流員との交流

＜１年＞職場体験・枝豆の収穫

令和元年10月7日（月）

秋田県立大館国際情報学院中学校・高等学校

北教育事務所長学校訪問　日程

９：００	来校（校長室）
９：０５～　９：３０	学校経営説明（校長室）
９：４０～１０：３０	２校時授業参観
１０：４０～１１：３０	３校時授業参観
１１：４０～１２：１０	感想及び指導助言

単元（題材）名・授業者一覧

２校時（　９：４０～１０：３０）

No	学年・組	教　科	単　元　・　題　材	授　業　者	授業教室
1	１年３組	保健体育	器械運動（マット運動・跳び箱運動）	日景美喜雄	中学校体育館
2	１年２組	国　語	「指示する語句」と「接続する語句」	武田　俊樹	１年２組
3	２年１組	英　語	Unit 5　Universal Design	本多　牧子（Ｔ１） 木次谷滋美（Ｔ２）	２年１組
4	２年２組	技術・家庭	電気エネルギー	本城　直幸	２年２組
5	３年１組 ３年２組	数　学	関数$y=ax^2$	佐藤　　潤	３年１組
6		数　学	関数$y=ax^2$	髙橋　裕樹	３年２組
7		数　学	関数$y=ax^2$	冨樫　智也	多目的教室１
8	１年１組	理　科	水溶液の性質	菊地　富子	生物実験室

３校時（１０：４０～１１：３０）

No	学年・組	教　科	単　元　・　題　材	授　業　者	授業教室
1	１年３組	英　語	Daily Scene 2　電話の会話	成田　　透（Ｔ１） 本多　牧子（Ｔ２）	１年３組
2	２年１組	社　会	九州地方～自然環境と共生する地域～	杉沢　美穂	２年１組
3	２年２組	国　語	音読を楽しもう　平家物語	瀬川　　光	２年２組
4	３年１組	道　徳	集団生活の充実「私たちの合唱コンクール」	木次谷優和子	３年１組
5	３年２組	理　科	エネルギーと仕事	唐津　信幸	化学実験室
6	１年Ｅ組	公　民	政党政治と選挙	佐藤　敦史	１年Ｅ組
7	１年Ｄ組	商　業	売買に関する計算	中嶋　忠宗	１年Ｄ組
8	１年Ａ組 １年Ｂ組 １年Ｃ組	数学Ⅰ	事象と確率	佐々木杏里	１年Ｂ組
9		数学Ⅰ	場合の数	石崎　　諒	１年Ａ組
10		数学Ⅰ	事象と確率	櫻庭由紀子	国際関係実習室

２校時・学習指導案

1年3組　保健体育科 学習指導案

指導者　日景美喜雄
場　所　中学校体育館

1　単元名　　器械運動（マット運動・跳び箱運動）

2　本時のねらい　　技のできばえを高めるために、条件を変えた技に取り組み、なめらかに運動することができる。

3　学習過程（本時　7／9　）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　準備体操をする。 2　本時の学習目標をつかむ。 技のできばえを高めるために、テンポや正確さに気を付けながら練習に取り組もう。	3 7	・動きにテンポをつける例を説明し、条件を変えながらなめらかに運動することを確認する。
3　練習をする。（ペアやグループ）	３２	・条件を変えた技ができない生徒に確認した動きを試してみるように声をかける。 ・ｉｐａｄで動画を撮り、技がうまくできているか確認できるようにする。 ・上手にできている生徒の動きを紹介し、参考にできるようにする。 ［運動の技能］ 条件を変えながらなめらかに運動できる。（観察）
4　学習の振り返りをする。	8	・振り返りの視点の②「どんなことができるようになったか」について振り返りをさせ、頑張りを賞賛する。

1年2組　国語科 学習指導案

指導者　武田　俊樹
場　所　1年2組教室

1　単元名　　「指示する語句」と「接続する語句」

2　本時のねらい　　「指示する語句」の働きを理解し、文章から指示する語句が指し示す内容を正確に読み取ることができる

3　学習過程（本時　1／2）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　本時の課題を確認する。 こそあどは何を指示しているのだろうか	5	・「これ」「この」「それ」などの指示する語句を使った会話を取り上げてねらいに迫る。
2　例文の中から指示する語句を探す。	5	・現場指示は話し手、あるいは聞き手と、指し示すものの距離によって分類できるよう、実際に例示しながら確認する。
3　「指示する語句」を観点ごとに分類する。	１５	・どの観点で分類できるかを考えさせるために、全体で例示してから班で解かせるようにする。
4　「指示する語句」と指し示す内容を確認する。	１５	・ワークシートの練習問題を班で確認しながら解かせ、全体で確認させる。
5　文脈指示についてシートで確認する。	１０	［伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項］ 文脈指示の指示する語句と、それが指し示す内容を的確に指摘している。（観察・シート）

2年1組　英語科 学習指導案

指導者　本多　牧子
　　木次谷滋美
場　所　2年1組教室

1　単元名　　Unit5 Universal Design

2　本時のねらい　　従属接続詞ifに導かれる節を、主節と正しく結びつけることによって、ifが仮定や条件を表すものであることを理解することができる。

3　学習過程（本時　1／12）

学習活動	時間	教師の活動・支援、評価	
		T1（本多）	T2（木次谷）
1　スキットを見てどんな場面かを確認し、ロールプレイをする。	10	・エピソード記憶強化のため、役になりきってロールプレイをするよう助言する。	・スキットでT1の相手役を臨場感豊かに演じる。
2　本時の学習課題をつかむ。 ifに導かれた文の意味を考え絵や文と結びつけよう。	5		
3　チャンツを活用した基本表現の口頭練習をする。	5	・リズムとテンポを大切にし、全体を牽引する。	・生徒の発話を支援する。
4　if節を絵や文と結びつける活動に取り組む。（個→ペア）	15	・結びつきが正しいかどうかを確認し、つまずいているペアにはヒントを示すなどして支援する。	
5　確認問題に取り組み、本時の学習を振り返るとともに、次時への見通しをもつ。	15	［言語や文化についての知識・理解］ if節の表す意味を正しく理解し、主節と結びつけている。（観察・シート）	

2年2組　技術・家庭科（技術）学習指導案

指導者　本城　直幸
場　所　2年2組教室

1　単元名　　電気エネルギー

2　本時のねらい　　私たちの生活になくてはならない電気について、発電所から家庭までの電気の流れ等の理解を通して、節電や正しい電気機器の使い方などについて考えることができる。

3　学習過程（本時　2／2）

学習活動	時間	教師の活動・支援、評価
1　電気→光変換機器にはどんなものがあるかを考え、発表する。	10	・電気から光への変換実験をしてみせる（電池による白熱灯）。
2　電気→光エネ変換機器それぞれの長所短所を考え、発表する。 電気エネルギーを有効に活用する方法を考えよう。	15	・学習プリントを配付し、穴埋め記入させる。
3　9月の千葉県台風被害も取り上げながら、日常生活における電気の重要性について考え、発電から家庭までの電気の流れを確認する。	20	・専門的な部分については、生徒が理解しやすい日常の言葉で説明、補助する。「電車」部分は列車通学生に指名して発表させる。また、秋田変電所や大館変電所、JRの変電所についても、その存在や大きさなどの感想を発表させる。
4　前時とあわせて節電の大切さや正しい電気機器の使い方についてまとめる。	5	［関心・意欲・態度］ 発・送電から、家庭での電気エネルギーの使い方について考え、電気の重要性や節電に思いを巡らせている。（発表・プリント記入）

3年（Aコース）数学科 学習指導案

指導者　佐藤　潤
場　所　3年1組教室

1　単元名　　関数$y=ax^2$

2　本時のねらい　　関数$y=ax^2$の変域をグラフを利用して求めることを通して、$y=ax^2$の変域の特徴を理解し、簡単なグラフを利用して変域を求めることができる。

3　学習過程（本時　7／13）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　本時の学習に関連した前学年の学習内容を復習をする。	10	・表やグラフを用いて一次関数の値の変化の様子や変域を求めたことを確認する。
2　学習課題を確認し、学習問題に取り組む。 関数$y=x^2$のxの変域に対するyの変域にはどんな特徴があるのだろうか	15	【学習問題】関数$y=x^2$について、xの変域が負の範囲、正の範囲、原点をはさむ場合のときのyの変域を、グラフを利用して求めなさい。 ・1次関数でxの変域に対するyの変域を求めた時との違いについて考えさせる。 ・負の範囲、正の範囲、原点をはさむ場合の変域を比較しながら、関数$y=x^2$の変域の求め方についてまとめる。
3　関数$y=x^2$の変域ついて調べ、まとめをする。	10	
4　練習問題に取り組む。	10	［数学的な技能］ 関数$y=ax^2$のxの変域に対するyの変域を、グラフの最大値と最小値を確認することによって求めることができる。　（ノート・評価問題）
5　評価問題に取り組み、本時の振り返りをする。	5	・学習の中で印象に残った活動や友だちの意見・考えを書かせ、授業の理解を深める。

3年（Bコース）数学科 学習指導案

指導者　高橋　裕樹
場　所　3年2組教室

1　単元名　　関数$y=ax^2$

2　本時のねらい　　関数$y=ax^2$の値の変化の特徴を理解し、関数$y=ax^2$のxの変域に対するyの変域を、グラフの最大値と最小値を確認することによって求めることができる。

3　学習過程（本時　7／13）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　学習問題を読み、本時の学習課題を確認する。 関数$y=ax^2$の、xの変域に対するyの変域にはどのような特徴があるか。	15	【学習問題】1次関数$y=2x+1$と関数$y=2x^2$について、xの変域が$-1\leqq x\leqq 2$のときのyの変域を求め、その相違点を説明しなさい。 ・1次関数の変域を求めたときの過程と比較しながら、関数$y=2x^2$のyの変域が$x=0$のときに最小値0となることに気付かせる。
2　$a<0$の場合の変域について調べ、関数$y=ax^2$の変域の特徴についてまとめる。	15	・1次関数では、xの変域の両端の値が、yの変域の両端に対応していたが、関数$y=ax^2$では必ずしもそうならないことを確認し、まとめをする。
3　練習問題に取り組む。	12	［数学的な技能］ 関数$y=ax^2$のxの変域に対するyの変域を、グラフの最大値と最小値を確認することによって求めることができる。　（ノート・評価問題）
4　評価問題に取り組み、本時の振り返りをする。	8	・学習の中で印象に残った活動や友達の意見・考えを書かせ、授業の理解を深める。

3年（Cコース）数学科 学習指導案

指導者　冨樫　知也
場　所　多目的教室1

1　単元名　　関数$y=ax^2$

2　本時のねらい　関数$y=ax^2$の平行移動について、1次関数や2次式の因数分解の考え方を活用することによって、タブレット端末のアプリを使いながら、その方法を探ることができる。
※　発展学習（高校の学習内容）

3　学習過程（本時　7／13）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　関数$y=ax^2$のグラフの特徴を確認する。	8	・これまでかいてきた関数$y=ax^2$のグラフの頂点はすべて原点を通っていることを確認させる。
2　学習課題を確認し、学習問題に取り組む 関数$y=x^2$のグラフをx軸の正の方向に3だけ平行移動したグラフはどんな式になるか。	25	・最初に、1次関数の考え方と似ているy軸の正の方向への平行移動を考えた後で、x軸の正の方向への平行移動を考える。 ・頂点がx軸の正の方向に1、2、3、4と平行移動したときにできる式の特徴を、タブレット端末を利用して考えさせる。
3　頂点がx軸方向に動くグラフの式の特徴を考察する。	10	・近くの生徒と相談しながら、頂点がx軸の正の方向に動くグラフの式にはどんな特徴があるかを考察させる。 ［関心・意欲・態度］ 関数$y=ax^2$の平行移動について、興味・関心をもって考察しようとする。（学習シート）
4　本時の振り返りをする。	7	・高校の内容への橋渡しであることを伝える。

1年1組　理科 学習指導案

指導者　菊地　富子
場　所　生物実験室

1　単元名　　水溶液の性質

2　本時のねらい　溶ける溶質の質量と温度の関係から考えたことをもとに、温度差を利用して溶液から溶質を取り出すことができる。

3　学習過程（本時　5／7）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　溶質を取り出す方法を確認する。	3	・温度と溶ける量を示した表を準備する。
2　本時の学習課題をつかむ。 水溶液から溶質を取り出すにはどのような方法があるか？	2	・前時の予想と見通しを確認する。
3　水への溶け方、熱したときの溶け方を調べる実験を行う。	30	・実験手順や注意点の確認をする。 ・食塩と硝酸カリウムを同量の水に入れ、溶け方を比較させる。 ・50℃まで温めたときの溶ける量の違いや水で冷やした時の変化に着目させる。
4　温度による溶け方の違いを確認する。	6	
5　溶けている溶質を取り出すためにはどのような方法があるかをまとめる。	5	［観察・実験の技能］ 安全な方法で再結晶の実験を行うことができる。（観察・実験シート） ・水溶液から溶質を取り出す方法についてまとめる。
6　振り返りをする。	4	・今日の実験で学んだことを振り返る。

３校時・学習指導案

1年3組　英語科 学習指導案

指導者　成田　　透
　　本多　牧子
場　所　1年3組教室

1　単元名　　Daily Scene 2　電話の会話

2　本時のねらい　　電話の会話で、電話での特有な表現や既習表現を用いて、相手を招待したり、誘ったりする対話をすることができる。

3　学習過程（本時　1／2）

学習活動	時間	教師の活動・支援、評価	
		T1（成田）	T2（本多）
1　既習表現の復習をする。	5	・命令文の表現を繰り返し練習することで、本時の活動でもスムーズに使えるようにする。	
2　本時の学習目標を確認する。 電話で友達を誘ってみよう！	5	・教師のデモンストレーションを通して、本時の学習目標を確認させる。	
3　基本表現を練習する。	5	・TVを使って、繰り返し練習させる。	
4　モデル対話を練習する。	10	・一斉やグループ別、ペアや個などいろいろなパターンで繰り返し練習できるよう支援する。	
5　招待したい、誘いたい用件を決めメモをする。	5	・生徒が使用しそうな表現を聞き出す。	・使用しそうな表現を板書する。
6　日時や用件をかえて、相手を誘ってみる。	15	［外国語表現の能力（話すこと）］ 電話での対話に特有な表現や既習表現を用いて、相手を招待したり誘ったりする対話をすることができる。（発表）	
7　全体で数名の発表を共有する。	3		
8　本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	2	・発表のよい点を確認したり、気付かせたりする。	

2年1組　社会科 学習指導案

指導者　杉沢　美穂
場　所　2年1組教室

1　単元名　　九州地方～自然環境と共生する地域～

2　本時のねらい　　九州地方の自然環境の特色を読み取り、その事実を基に学習課題を設定することができる。

3　学習過程（本時　1／5）

学習活動	時間	教師の活動・支援、評価
1　本時の学習目標を提示する。 九州地方の自然環境の特色を読み取り、単元を貫く学習課題をつくろう。	15	・資料（雨温図、台風、火山）を提示する。 ・自然環境の実感をもたせるためICTを活用して映像を流す。
2　資料を見て、九州地方の自然環境を読み取り、疑問に思ったことを発表する。		・生徒の問い（予想）をさらに引き出すために、視点（農業・他の産業・防災）を絞った発問をする。
3　特色ある自然環境の中で、どのように生活しているか仮説を立てる。	25	・仮説は「～ので、～ではないか」型でまとめる。 ・自力で仮説を立てられるよう、ペアの生徒の予想を参考にし、再度予想する時間を確保する。
4　本時の活動を振り返る。	10	［社会的な思考・判断・表現］ 九州地方の地域的特色に関する資料を読み取り、その事実を基に適切な課題を設定することができる。（行動観察・学習シート）

2年2組　国語科 学習指導案

指導者　瀬川　光
場　所　2年2組教室

1　単元名　　音読を楽しもう　平家物語

2　本時のねらい　歴史的仮名遣いや漢語を巧みに交えた文章のリズムに注意しながら「平家物語」の冒頭部分を音読することができる。

3　学習過程（本時　1／2）

学習活動	時間	教師の活動・支援、評価
1　既習事項の確認をする。	13	・大館商業高校の校歌の「おもひ」「集へり」などを活用し、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す方法を想起させる。
2　本時の学習目標をつかむ。 歴史的仮名遣いや文章のリズムに注意しながら音読しよう。	5	・平曲を聞かせるなどして、歴史的仮名遣いだけではなく、リズムにも注意させる。
3　四文字から成る漢語や対句的な表現によるリズムに注意して、音読する。	17	・「祇園精舎」「諸行無常」などの漢語や「鐘の声」「花の色」などの対句的な表現に注意させ、リズムを感じさせる。
4　形態を替えながら音読する。	10	［言語事項］ 歴史的仮名遣いに注意して、リズムよく音読できる。（観察・発表）
5　本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	5	

3年1組　特別の教科　道徳 学習指導案

指導者　木次谷優和子
場　所　3年1組教室

1　主題名　　集団生活の充実（よりよい学校生活、手段生活の充実）「私たちの合唱コンクール」

2　本時のねらい　集団としての目標や意義を理解し、集団の在り方について考え、集団生活の向上に努める態度を養う。

3　学習過程（本時1／1）

学習活動	時間	教師の活動・支援、評価
1　これまでの学級で取り組んできた経験を振り返る。	5	・学級写真を提示し、素直な気持ちを共感的に受け止める。
2　教材を読んで、3年3組の生徒の思いを考え話し合う。	18	・亮と賢二や結衣、みどりの気持ちを、自分の経験と合わせ考えられるようにする。 ・学校全体で取り組むよさを取り上げ、よりよく集団生活を送るために大事にしたいことを考えられるようにする。
3　翌日、教室の中が自然と拍手でいっぱいになった理由を考え、発表する。 卒業式のあと、合唱曲を歌う3年3組の一人一人の心には、どんな思いがあったでしょう。	12	学級や学校の一員としての自覚をもち、集団の意義や集団の中での自分の役割と責任に気付き、自分なりの考えをもっていたか。（発表・学習シート）
4　卒業式のあとで合唱曲を歌う3年3組の一人一人の思いを考え、発表する。	10	・学級合唱や全校合唱に対する、今の自分の思いと対比させて発表させる。
5　振り返りをする。	5	・合唱コンクールに向けて、自分の役割や責任について考えた思いを書くことができる付箋を用意する。

3年2組　理科 学習指導案

指導者　唐津　信幸
場　所　化学実験室

1　単元名　　エネルギーと仕事

2　本時のねらい　　実験の結果から、質量が大きく、速い物体ほど運動エネルギーが大きいことに気付き、文章にまとめることができる。

3　学習過程（本時　2／13）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　前時の学習を振り返る。	2	・前時の予想を確認することにより、自分の仮説が正しいか検証しようとする意欲を高める。
2　本時の学習課題をつかむ。 運動している物体のもつエネルギーの大きさは、何によって決まるのだろうか。	3	・何が分かれば本時の課題が解決されるのか、キーワードを使って明確に押さえ、見通しと目的意識をもたせる。
3　実験を行い、結果をまとめる。	25	・手順においては、前時に確認しておき、実験の時間を十分に確保する。
4　結果から、運動エネルギーに関与するものについて考察し、結論をまとめる。	15	・一人で考察するのに不安な生徒のために、個で考察した後グループで話し合う場を設定する。 ［科学的な思考・表現］ 実験結果の表やグラフから、運動エネルギーには、質量と速さが関与していることを文章で表すことができる。（発言・シート）
5　本時の振り返りをする。	5	・自己の変容に気付かせ次時の学習への意欲付けを図る

1年E組　公民科（現代社会）学習指導案

指導者　佐藤　敦史
場　所　1年E組教室

1　単元名　　政党政治と選挙

2　本時のねらい　　民主主義の基本である選挙制度について理解し、それがどのように行われているかを模擬選挙を通じて捉え、自分の考えを表現することができる。

3　学習過程（本時　1／3）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　本時の学習目標を確認する。 選挙制度を理解し、実際に投票してみよう。	5	
2　架空の候補者・政党から自分の考えと合致するものに投票する。	5	・比例区のドント式を説明する。どのように当選者が決まるのかを確認させる。
3　日本の政党を確認する。	5	・党首、代表の写真から、政党への関心を高め、主な日本の政党を紹介する。
4　各政党の公約から模擬投票を行う。	20	［社会的な思考・判断・表現］ 模擬投票から自分の考えと国政選挙の結果を比較しながら文章を書くことができる。（観察）
5　国政選挙の結果とクラスの結果の違いを考える。	10	
6　本時の振り返り、次時への見通しをもつ。	5	・有権者になるに当たって考えたことを表現させる。

１年Ｄ組　商業科「ビジネス基礎」学習指導案

指導者　中嶋　忠宗
場　所　１年Ｄ組教室

１　単元名　　売買に関する計算

２　本時のねらい　　度量衡や貨幣を、同じ量や同じ価値に換算できる。

３　学習過程（本時１／１０）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
１　売買に関する計算について、注意点を確認する。	５	・度量衡や利息計算の注意点を示し、各々の理解が不足している点を補正する。
２　問題演習をする。 実際に時間を計測して、模擬問題に取り組もう。	２５	・時間経過を示しながら、問題を解くペース配分（めやす）を指示していく。
３　解答を確認する。	２０	・解答とそれに至る計算過程を示す。 〔算出過程の思考、計算器具活用の技能〕 ・計算の方法を理解している。 ・計算器具の機能を活用し合理的な計算処理ができる。（観察）

１年ＡＢＣ組　数学Ⅰ　学習指導案

指導者　佐々木杏里
場　所　１年Ｂ組教室

１　単元名　　事象と確率

２　本時のねらい　　複数の事象の起こりやすさについて、計算で求めることにより、根拠をもって比較することができる。

３　学習過程（本時　１／３）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
１　計算練習をする。	１０	・基本的な計算の練習をし、技能を高める。
２　本時の学習課題を確認する。 起こりやすさを比較するにはどのようにしたらよいか。	１０	・サイコロの目の出方の起こりやすさを予想する。 ・実際に試行を行う。 ・結果を比較する。
３　起こりやすさの比較はどのようにしたらよいかグループで話し合う。	１０	・中学校での学習を振り返る。 ［数学的な見方・考え方］ 数式や表を用いて、自分の考えを説明できる。（発表・観察）
４　それぞれの確率を求める。	１５	
５　本時の振り返りと確認をする。	５	・（事象Ａの起こる場合の数）／（すべての事象の起こる場合の数）として確率を定義し、前時まで学習した場合の数を利用することに触れる。

1年ＡＢＣ組　数学科 学習指導案

指導者 石崎　　諒
場　所 1年A組教室

1　単元名　　場合の数

2　本時のねらい　　重複を許してつくる組合せの総数を「同じものを含む順列」を利用して、求められることに気付くことができる。

3　学習過程（本時　１５／１５）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　学習目標を把握する。 重複を許して作る組合せの総数の求め方を説明できる。	5	・問題を２題並べて生徒に提示する。 問題１　Ｘ＋Ｙ＋Ｚ＝４（X、Y、Zは０以上の整数とする。）を満たす整数の組の総数を求めよ。 問題２　３種類の果物りんご、なし、みかんから、重複を許して４個選んでつくる組合せの総数は何通りあるか。
2　問題１に取り組む。	１０	・生徒に起こりうるすべての場合を書き出させる。
3　「○」と「仕切り」で問題１の総数を求めることを確認する。	１５	［数学的な見方・考え方］ 「同じものを含む順列」を用いて、問題を解くことに気付き、説明することができる。（観察・発表）
4　問題１と問題２の共通する考え方について話し合う。	１０	
5　本時の学習を振り返り、評価問題に取り組む。	１０	・到達度に応じて、解く問題を選ぶことができるように配置する。

1年ＡＢＣ組　数学科 学習指導案

指導者　櫻庭由紀子
場　所　国際関係実習室

1　単元名　　事象と確率

2　本時のねらい　　複数の事象の起こりやすさについて、計算で求めることにより、根拠をもって比較することができる。

3　学習過程（本時　１／３）

学　習　活　動	時間	教師の活動・支援、評価
1　これまでの内容を振り返り、学習問題を読み、学習課題をつかむ。 起こりやすさを、説明して比較するにはどうしたらよいか。	１０	・これまでに学習した「確率」について振り返り、身近な試行を取り上げる。 【学習問題】じゃんけんをした際に、あいこになる時の起こりやすさはどうなるか比べよ。 ①２人でじゃんけん ②３人でじゃんけん
2　起こりやすさの比較にどんな計算が必要か考え、話し合う。	２０	・予想させる ・比較するためにどのような計算をしたらよいか、考えさせる。
3　①②どちらも起こりやすさは等しいことに気づく。	１０	［数学的な見方・考え方］ 事象の起こりやすさについて、計算し根拠をもって比較できる。（観察・発表）
4　本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	１０	・（事象Ａの起こる場合の数）/（すべての事象の起こる場合の数）として確率を定義し、前時まで学習した場合の数を利用することに触れる。

平成31（令和元）年度　大館国際情報学院中学校

各教科経営反省

【国語科】　　教科部員〈○瀬川　光、武田俊樹〉

国語科のめざす生徒像

読みの疑問を大切にし、互いに関わり合いながら、主体的に学ぼうとする生徒

指導目標

・思考し、表現する場を学習活動に位置付け、生徒の力の向上を図る。
・グループ、全体での話合い活動を重視し、互いの関わりの中で主体的に学べるようにする。

具体的な手立て　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりできなかった

・生徒の読みの疑問を大切にした学習過程を設定する。
・グループ、全体での話合いが深化していくように、発問等を工夫する。
・生徒の思考力、表現力を養うために、「読む」「考える」「話す・書く」活動を一単元の中に意図的に組み込む。

評価		
1学期	2学期	3学期
B	A	A
B	B	B
B	B	B

成果と課題　○成果　△課題

○生徒の状況を把握するために、単元テスト（まとめプリント）やワークの問題を活用した。それに基づいて、次の学習過程を弾力的にすすめてきた。結果として、定着率が上がってきている。読みの疑問をもとにした学習過程にまでは至っていないものの、生徒の状況に応じて学習過程を錬ることができた。
△グループ学習と全体学習の兼ね合いが難しいと感じることがあった。創意工夫が大切とは思うが、時間的な制約もあり今後への課題としたい。
△「読む」「考える」「話す・書く」活動のバランスを保ちながら学習を進めてきた。ねらいに即してどの活動に重点を置くのが効果的かを見定め、今後は実践していきたい。

【社会科】　　教科部員〈○木次谷優和子、杉沢美穂〉

社会科のめざす生徒像

社会的事象を多面的に捉え、よりよい生き方や社会を探ろうとする生徒

指導目標

・基礎的・基本的な内容を確実に理解させ、定着を図る。
・視覚に訴える資料を提示することで興味・関心を引き出し、調べたことを基に意見交流させることを通して、自分の考えをより深めることができるようにする。

具体的な手立て　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりできなかった

・基本用語が身に付くように、継続してミニテストを行う。
・ＩＣＴ機器を活用して視覚に訴える資料を提示することで興味・関心を引き出し、調べたり考えたりしようとする意欲付けを図る。
・グループ活動を取り入れ、自分と他者の考えを比較・検討することで考えを深めさせる。また、学習のまとめや振り返りの時間を確保する。

評価		
1学期	2学期	3学期
A	A	A
B	B	B
B	B	B

成果と課題　○成果　△課題

○授業スタイルが確立し、授業－復習－小テスト－復習と取り組んだことで、単元テストや各諸テストで基本語句の定着率がアップしてきた。長期休み明けには課題テストを実施することで、課題への取り組み方の意識が以前よりよくなってきた。
○電子黒板を活用し、資料提示や動画を活用することができた。興味・関心が高まり、学ぶ必要性を感じる生徒が少しずつ増えてきた。
○学習のまとめや振り返りを、次時の授業に生かすことができた。
△様々なグループ活動を取り入れることはできたが、考えを深めさせるというところまで到達できなかった。

【数学科】　　教科部員〈○髙橋裕樹、佐藤　潤、松尾　弘、本城直幸〉

数学科のめざす生徒像

問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな発見を見いだしたりして、主体的に学ぶことができる生徒

指導目標

・数学的な思考力・表現力を育成するために言語活動の充実を図る。
・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、それらを問題解決に活用できるようにする。

具体的な手立て　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりできなかった

	評価		
	1学期	2学期	3学期
・「比較・検討」など、数学的な見方や考え方を働かせた数学的活動を計画的に設定する。	A	A	A
・問題解決の方法や理由を数学的な表現を用いて説明するなど、言語活動の充実を図るとともに、解決の過程や結果を振り返り、評価・改善することができるようにする。	B	A	B
・学習内容の定着を評価テストで確かめ、生徒が「わかる」「できる」を感じて意欲的に学習に取り組めるようにする。また、不十分な場合は補充する。	B	B	B

成果と課題　○成果　△課題

○問題解決の方法や理由を数学的な表現を用いて説明する活動に、丁寧に取り組ませるようにしてきた。粘り強く考え、相手意識をもって説明を書く力がついてきた。
△自らの取組を振り返り、評価・改善しようとする態度の育成には課題が残る。解いて（書いて）終わりではなく、生徒同士の多様な考えを発表し認め合う等、協同的な活動を通して事象を様々な視点から捉えようとする態度を育てていきたい。
△評価テストを実施し、間違い直しや再テスト等は行うことができたが、そのことが生徒の学習意欲向上につながっているとはいえない。「できるようになりたい」「わかるようになりたい」と思えるような授業を展開する中で、生徒が自分自身の学習状況を理解し主体的に学習に取り組めるようにしていきたい。

【理科】　　教科部員〈○唐津信幸、菊地富子〉

理科のめざす生徒像

関心や意欲をもって自然の事物・現象に関わり、見いだした問題を解決するために見通しをもって観察、実験などに取り組むことができる生徒

指導目標

・目的意識をもった観察や実験の充実を図る。
・観察や実験の結果を基に、考察を深めるための手立てを工夫する。

具体的な手立て　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりできなかった

	評価		
	1学期	2学期	3学期
・学習課題（問題）は、生徒から引き出した気付きや疑問に基づくとともに、まとめの内容に対応することを踏まえて設定する。	B	B	B
・考察を促す発問に、共通点や差異点（相違点）、要因、規則性、傾向等の視点を組み入れる。	B	A	A
・結論を導くまでの思考の流れについて、互いに表現し合い、検討する活動を取り入れる。	B	B	B

成果と課題　○成果　△課題

○学習課題（問題）の答えが結論やまとめになるよう、課題の提示の仕方や文の表現を工夫できた。
○考察を促す発問に様々な視点を組み入れることはできたが、時間がかかることもあった。
○結果と考察については、だんだんと生徒たちも慣れ、きちんと区別できるようになってきた。考察については、個々に考えを述べたり反応したりすることはできるのだが、それを全体で

検討したり練り合ったりというところまではいっていない。まずはグループ内で考えを共有し、検討する場面を多く設定し、経験値を増やしたい。そして次のステップとして、グループを全体に広げ、交流や検討、練り合う場面などを設定していきたい。
△生徒から引き出した気付きや疑問に基づく課題提示があまり工夫できなかったので、身近な事象をそろえたり、提示方法を工夫したりしたい。ただ、生徒の前時の振り返りの記述から次時の学習課題を設定したり、課題提示の際の導入で引用してみたりして、生徒の中から課題設定できるよう工夫できた時間もあった。

【音楽科】　　教科部員〈○石田　幸（高校）〉

音楽科のめざす生徒像
音楽表現を楽しみ、音楽のもつよさや楽しさを味わうことのできる生徒

指導目標
・音楽を愛好する心情を育てる。
・音楽に対する感性を豊かにする。

具体的な手立て　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりできなかった	評価 1学期	2学期	3学期
・生徒個々に指導が行き届くように、グループ活動をバランスよく組み入れる。	A	A	A
・個性的な表現の工夫ができるように、動きのある授業展開にする。	A	A	A
・興味・関心・意欲を高めるために、指導が専門的にならないよう心掛けて発問を多くする。	A	A	A

成果と課題　○成果　△課題
○ギターや箏を取り入れ生徒のやる気を引き出し、グループでの活動で学びが深まっていたようだ。
○なるべく多くの生徒に立って発表する機会を与え、考えをみんなで共有した。
△アンケート結果を見ると、一時間一時間の成果を確認しながら進めていた割には生徒たちは目標がよくわかっていなかったようだ。目標の提示方法を工夫しなければならない。

【美術科】　　教科部員〈○小笠原祐子（高校）〉

美術科のめざす生徒像
創造や鑑賞することを楽しみ、生活の中の美術の働きに関心をもつことができる生徒

指導目標
・自信をもって自分の表現ができるようにする。
・作品の感じ方を深める鑑賞の時間を十分に確保する。

具体的な手立て　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりできなかった	評価 1学期	2学期	3学期
・生徒個々の能力に見合った表現ができたら具体的に褒める。	B	B	A
・作品に対する自分の意見をもつ活動を増やす。	A	B	B
・発問を増やし、考えて表現や鑑賞ができるようにする。	A	B	C

成果と課題　○成果　△課題
○能力的な差も表現の個性ととらえ、それぞれの表現方法を伸ばすことに気を付けた。自分の表現の特徴に気付くようになってきたと思う。

○発問しやすい題材では、生徒個々の考えを引き出し、全体で共有する活動ができた。
△題材によっては集中して取り組むことができたが、思いや感情を表すような題材では構想に時間がかかり、集中も持続しなかった。自分の考えや気もちを表現する題材が苦手な生徒が多いので、自信をもって自分の表現ができるように支援したい。

【保健体育科】　　教科部員〈○日景美喜雄、新林美保（高校）、金野拓真（高校）〉

保健体育科のめざす生徒像
・運動の楽しさを知り、意欲的に保健体育の学習に取り組むことができる生徒
・自分の健康や身体に関心をもち、学んだことを活かそうとする生徒

指導目標
・仲間と協力して技能を向上させることができるようにする。
・学習したことを生活に活かそうとする態度を育てる。

具体的な手立て　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりできなかった	評価		
	1学期	2学期	3学期
・ペア、グループなど技能向上に効果的な学習形態を取り入れる。	B	A	A
・ルールや学習方法を変化させながら、段階的に技能を高めるようにする。	B	A	B
・保健学習では、自分の生活での具体的場面をイメージさせて考える場面をつくる。	C	B	B

成果と課題　○成果　△課題
○ソフトボール、バスケットボールなどは野球部やバスケットボール部の生徒たちがリーダーとなって、グループの仲間にアドバイスをし、技能向上につなげることができた。
○バレーボールやソフトボールでは、ルールを変えてゲームをすることで楽しく運動に取り組めた。楽しく行うことで技能向上につながった。
△運動が得意な生徒でも、初めて行う運動では自分ができても、仲間にはなかなかアドバイスをすることができなかった。自信をもてるような声かけがもっと必要であったと思う。
△保健は１学期は実施する機会が少なかった。具体的な場面を提示するが、経験が少ないせいか分からないことが多く、考えまで結び付けるのが難しかった。

【技術・家庭科】　　教科部員〈○本城直幸、能島直美（高校）、大森雅子〉

技術・家庭科のめざす生徒像
技術と社会や環境との関わりや衣食住に関して、生活をよりよくしようとする意欲と能力を有する生徒

指導目標
・実践的、体験的な活動を通じて、基礎的・基本的な知識や技術の習得を図る。
・自ら進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を育てる。

具体的な手立て　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりできなかった	評価		
	1学期	2学期	3学期
・作品評価、技能テストなどで学習の振り返りを行い、知識や技術の定着を図る。	A	A	B
・生活への興味・関心が高まるよう、視聴覚機器の活用や教師の発問などの支援を工夫する。	B	B	B
・学んだ知識、技術を日常生活で生かせるように、生徒が積極的に活動できる授業を展開する。	A	A	A

成果と課題　○成果　△課題

○１年生の本棚製作では、各自が数種類のタイプから自分の希望にあわせて製作したことで、それぞれに個性的な作品を完成させることができた。（技）
○１年生の調理実習では、生徒が意欲的に取り組み、最後にはばらつきがなくなった。小テストをほぼ毎時間行い、栄養の知識が定着した。発問に対して積極的な発言が見られた。（家）
○２年生は、１年次に続いて「ビジネス文書実務検定速度部門」の過去問題に取り組んだことで、約半数の生徒が速度部門３級レベルのスピードを身に付けることができた。（技）
△各学年とも、視聴覚機器を頻繁に活用できなかった。特に３学期は３月の授業ができなくなったことで、生徒個々がパソコン操作する時間さえ少なくなってしまった。（技）
△調理実習をするにあたり、ガスやオーブンなどが老朽化のために故障して修理が不可能なものもあり、全部の調理台を一斉に使うことができず一部の生徒には不便をかけた。設備を整えてもらうようにしたい。（家）

【英語科】　　教科部員（○本多牧子、成田　透、木次谷滋美）

英語科のめざす生徒像

伝えたいこと、伝えるべきことを見いだし、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒

指導目標

・４技能をバランスよく取り入れながら、コミュニケーションを図る力を身に付けるための言語活動の充実を図る。
・言語の使用場面の設定を工夫し、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を育てる。

具体的な手立て　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりできなかった

	評価		
	1学期	2学期	3学期
・語彙や文法に関する知識を定着させ、コミュニケーションに生かすことができるよう、バランスの取れた言語活動を行う。	A	A	B
・複数の技能を関連付け、自分の気持ちや考えを表現する活動を充実させる。	B	A	B

成果と課題　○成果　△課題

○言語の使用場面を意識した上で、言語活動については積極的に実施することができた。
○様々なテーマを設定し、自分の気持ちや考えを書いて表現する活動を設定することができた。また、その事前活動としてペアでテーマについての話合いをもつことから、ブレーンストーミングと語彙確認を行うことができた。
△語彙や文法の知識の定着については個人差が大きく、達成状況が芳しくない生徒もいる。今後は、家庭学習の改善も含めて自学能力を高めていけるよう個別指導を行いたい。
△気持ちや考えを表現する活動については、時間的な制約もあるが、事後活動にさらに複数の技能を関連付けるなどしてレベルアップを図りたい。

高等学校
研究集録

令和元年度の校内研修について

高校研究部

１．校内研修の視点

本校の教育目標である、「共生の精神をもち、主体的に力強く生きる人間の育成」の達成を全体の研究課題として、その達成のために、

「主体的に課題を解決する力を養い、深い学びにつなげる授業改善」を目指す。

具体的な取り組みとしては

① 学習の見通しが明確になるような学習目標の提示

② 学び合いの中で学習課題を深く思考できるようにするための発問の工夫にとりくむ

の２点に各教科で取り組む。

２．校内研修の計画

① １学期の授業アンケートを実施し、生徒の各教科の授業への認識を確認する。

② 授業アンケートを元に、各教科で授業研究の課題を検討する。

③ ２学期に各教科で授業研究を実施する。

④ 指導主事の学校訪問に合わせて研究授業を実施する。

⑤ ２学期の授業アンケートで授業研究の取り組みに対する生徒の認識を確認する。

⑥ 各教科で次年度の研究の課題について検討する。

３．各教科の研究課題について

① 生徒からの授業の現状と各教科の対応について

② 各教科の授業研究の課題について

③ 授業研究の実施科目について（科目名　担当者）

４．各教科の授業研究について

９月～１０月にかけて、各教科で授業研究を実施した。

① １回目は実施科目の単元と指導計画を作成して、実施後科内で検討。

② ２回目は１０月２１日（月）の指導主事訪問時に１回目の実践と反省を基にして国語科、地歴公民科、理科で研究授業を実施した。

授業アンケートの実施について

高校研究部

学期末となりました。授業アンケートにより客観的に自らの授業を振り返り、
今後の授業力向上に役立てていきましょう！！

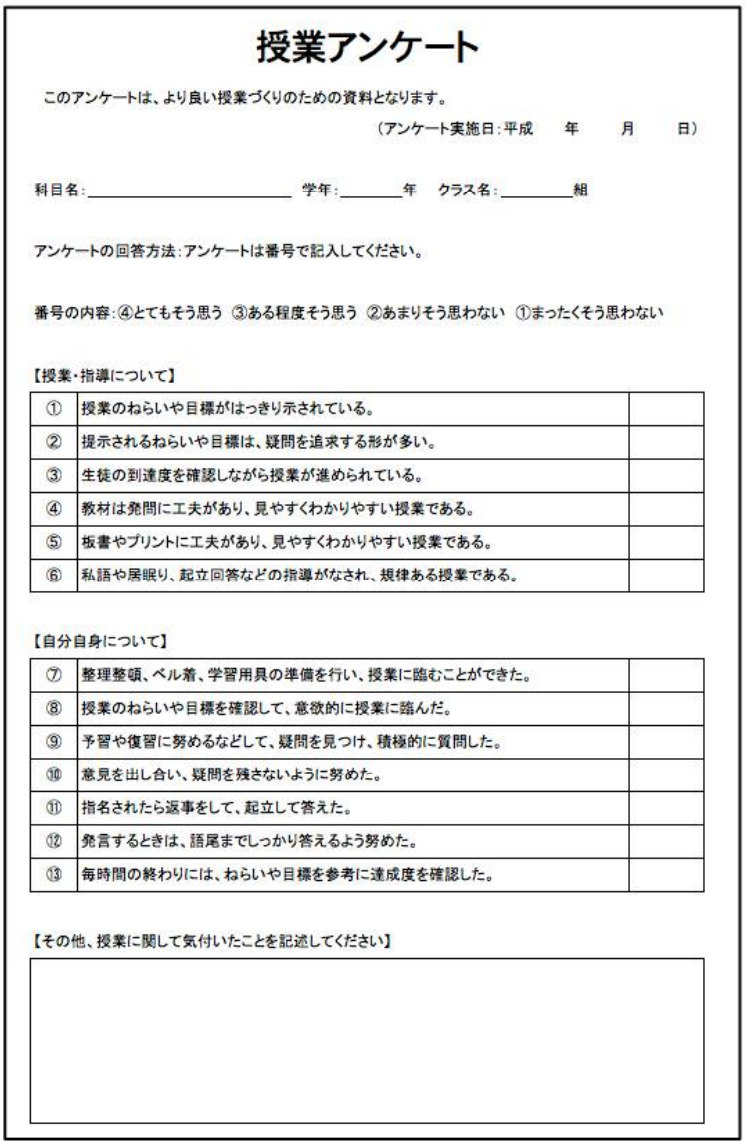
１・２学期末、年間２回実施の予定です

今回のアンケート集計には２つのエクセルファイル**「授業アンケート」**、**「各教科【１学期】」**を
使用します。いずれも共有フォルダ内の
「高校-分掌」→「高-研究（共有）」→「2019」→「授業アンケート」内にあります。

手　順

１　アンケートの実施

職員室内中央のコンピュータ隣の机上にアンケート用紙を印刷して準備しますので、授業で生徒に配付してアンケート調査を行ってください。



授業アンケート

このアンケートは、より良い授業づくりのための資料となります。

（アンケート実施日：平成　　年　　月　　日）

科目名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学年：＿＿＿年　クラス名：＿＿＿＿組

アンケートの回答方法：アンケートは番号で記入してください。

番号の内容：④とてもそう思う ③ある程度そう思う ②あまりそう思わない ①まったくそう思わない

【授業・指導について】

①	授業のねらいや目標がはっきり示されている。	
②	提示されるねらいや目標は、疑問を追求する形が多い。	
③	生徒の到達度を確認しながら授業が進められている。	
④	教材は発問に工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	
⑤	板書やプリントに工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	
⑥	私語や居眠り、起立回答などの指導がなされ、規律ある授業である。	

【自分自身について】

⑦	整理整頓、ベル着、学習用具の準備を行い、授業に臨むことができた。	
⑧	授業のねらいや目標を確認して、意欲的に授業に臨んだ。	
⑨	予習や復習に努めるなどして、疑問を見つけ、積極的に質問した。	
⑩	意見を出し合い、疑問を残さないように努めた。	
⑪	指名されたら返事をして、起立して答えた。	
⑫	発言するときは、語尾までしっかり答えるよう努めた。	
⑬	毎時間の終わりには、ねらいや目標を参考に達成度を確認した。	

【その他、授業に関して気付いたことを記述してください】

２　アンケート結果の入力

・共有フォルダ内のファイル**「授業アンケート」**を自らのパソコンにコピーする。

・コピーした「授業アンケート」内のシート「集計【１学期】」に、アンケート１枚につき１行ずつ入力していく。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	集計人数
2	平均	2.2	2.4	2.5	2.6	2.5	2.3	2.4	2.4	2.3	2.3	2.4	3.8	2.4	57人
3	合計値	128	137	144	149	143	133	135	134	131	131	136	216	135	
4	1	3	3	4	4	4	3	2	3	4	3	2	2	2	
5	2	2	3	2	3	4	3	2	3	2	2	2	4	2	
6	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	2	
7	4	2	3	4	3	2	2	2	2	2	3	3	4	4	
8	5	2	3	4	3	2	3	2	2	2	2	2	3	3	
9	6	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	3	
10															

共有フォルダ内のファイル**「各教科」**の中の自分の教科のシートに**「授業アンケート」**で集計済の集計数と各項目①～⑬の合計値を入力する。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1		集計数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
2			合計値	合計値	合計値	合計値	合計値	合計値	合計値	合計値	合計値	合計値	合計値	合計値	合計値
3	○○ ○○	30	12	19	111	100	33	36	120	77	78	93	110	120	100
4															
5	△△ △△	57	128	137	144	149	143	133	135	134	131	131	136	216	135
6															

４　アンケート結果を元にした振り返り

・共有フォルダ内のファイル**「各教科」**内のシート「【各教科の平均値】」のそれぞれの値を自らのコンピュータ内のファイル**「授業アンケート」**のシート「提出用紙」の対応する

平均値の右隣に入力していく。（自分の各項目が教科の平均以上であれば青，平均未満であれば赤に変化します）

	A	B	C	D	E	F
1		国語	地歴公民	数学	理科	保健体育
2	①授業のねらいや目標がはっきり示されている。	4.0	0.0	1.3	1.3	1.3
3	②提示されるねらいや目標は、疑問を追求する形が多い。	4.0	0.0	2.1	2.2	2.2
4	③生徒の到達度を確認しながら授業が進められている。	4.0	0.0	2.8	2.9	2.9
5	④教材は発問に工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	4.0	0.0	2.2	1.5	1.5
6	⑤板書やプリントに工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	4.0	0.0	1.7	1.8	1.8
7	⑥私語や居眠り、起立回答などの指導がなされ、規律ある授業である。	4.0	0.0	1.9	2.1	2.1
8	⑦整理整頓、ベル着、学習用具の準備を行い、授業に臨むことができた。	4.0	0.0	3.0	3.5	3.5
9	⑧授業のねらいや目標を確認して、意欲的に授業に臨んだ。	4.0	0.0	2.3	1.9	1.9
10	⑨予習や復習に努めるなどして、疑問を見つけ、積極的に質問した。	4.0	0.0	2.4	2.5	2.5
11	⑩意見を出し合い、疑問を残さないように努めた。	4.0	0.0	2.6	2.8	2.8
12	⑪指名されたら返事をして、起立して答えた。	4.0	0.0	2.3	2.3	2.3
13	⑫発言するときは、語尾までしっかり答えるよう努めた。	4.0	0.0	3.0	2.6	2.6
14	⑬毎時間の終わりには、ねらいや目標を参考に達成度を確認した。	4.0	0.0	2.3	2.7	2.7
15						

５　アンケート集計結果の提出

①　ファイル「授業アンケート」のシート「提出用紙」をカラーでプリントする。

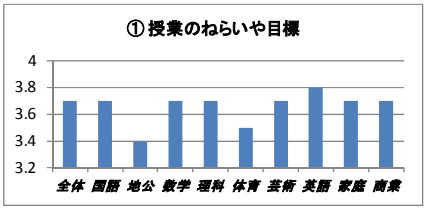
②　１部を 研究部 担当者の机上 に提出する。

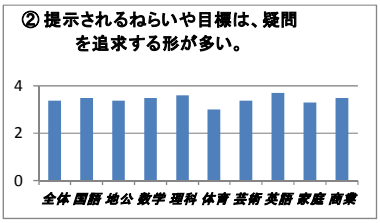
令和元年度　1学期授業アンケート集計（項目別）

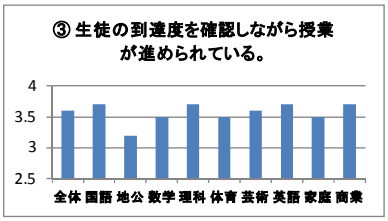
高校研究部

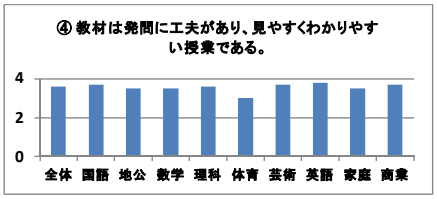
【授業・指導について】

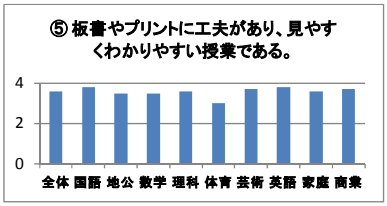
		全体	国語	地公	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	商業
①	授業のねらいや目標がはっきり示されている。	3.7	3.7	3.4	3.7	3.7	3.5	3.7	3.8	3.7	3.7
②	提示されるねらいや目標は、疑問を追求する形が多い。	3.4	3.5	3.4	3.5	3.6	3	3.4	3.7	3.3	3.5
③	生徒の到達度を確認しながら授業が進められている。	3.6	3.7	3.2	3.5	3.7	3.5	3.6	3.7	3.5	3.7
④	教材は発問に工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	3.6	3.7	3.5	3.5	3.6	3	3.7	3.8	3.5	3.7
⑤	板書やプリントに工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	3.6	3.8	3.5	3.5	3.6	3	3.7	3.8	3.6	3.7
⑥	私語や居眠り、起立回答などの指導がなされ、規律ある授業である。	3.5	3.7	3.4	3.5	3.5	3.4	3.6	3.7	3.5	3.6

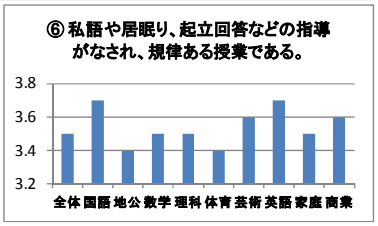






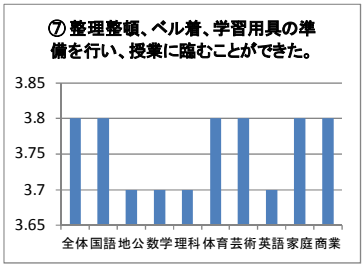


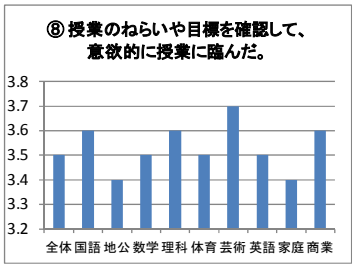


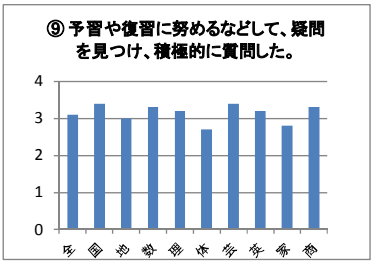


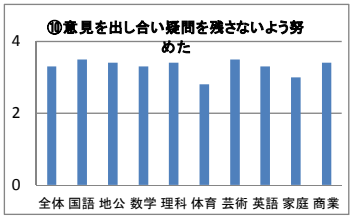
【自分自身について】

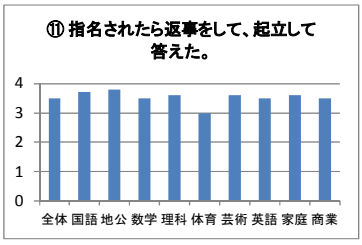
		全体	国語	地公	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	商業
⑦	整理整頓、ベル着、学習用具の準備を行い、授業に臨むことができた。	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8
⑧	授業のねらいや目標を確認して、意欲的に授業に臨んだ。	3.5	3.6	3.4	3.5	3.6	3.5	3.7	3.5	3.4	3.6
⑨	予習や復習に努めるなどして、疑問を見つけ、積極的に質問した。	3.1	3.4	3	3.3	3.2	2.7	3.4	3.2	2.8	3.3
⑩	意見を出し合い、疑問を残さないように努めた。	3.3	3.5	3.4	3.3	3.4	2.8	3.5	3.3	3	3.4
⑪	指名されたら返事をして、起立して答えた。	3.5	3.7	3.8	3.5	3.6	3	3.6	3.5	3.6	3.5
⑫	発言するときは、語尾までしっかり答えるよう努めた。	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6	3.1	3.7	3.6	3.6	3.6
⑬	毎時間の終わりには、ねらいや目標を参考に達成度を確認した。	3.4	3.5	3.2	3.4	3.4	3.3	3.6	3.4	3.2	3.5

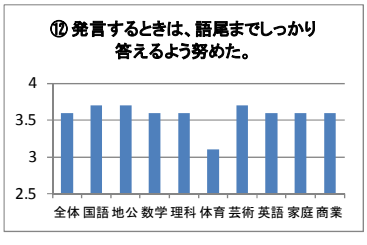


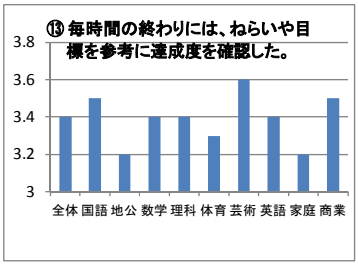










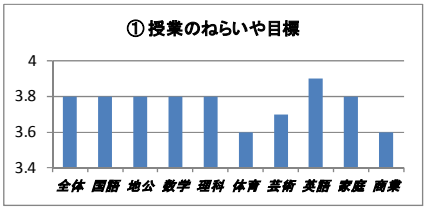


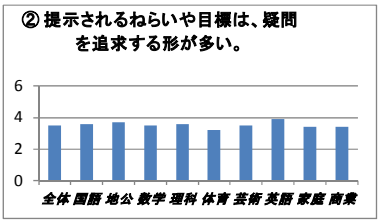
令和元年度2学期授業アンケート集計（項目別）

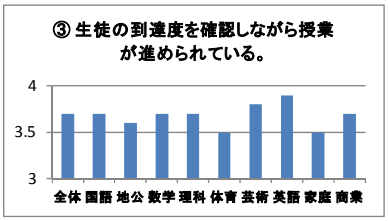
高校研究部

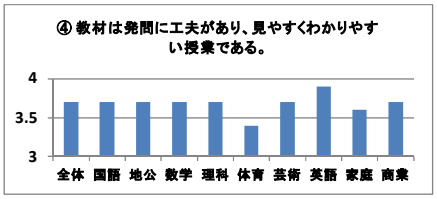
【授業・指導について】

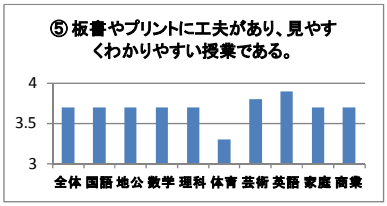
		全体	国語	地公	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	商業
①	授業のねらいや目標がはっきり示されている。	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7	3.9	3.8	3.6
②	提示されるねらいや目標は、疑問を追求する形が多い。	3.5	3.6	3.7	3.5	3.6	3.2	3.5	3.9	3.4	3.4
③	生徒の到達度を確認しながら授業が進められている。	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.5	3.8	3.9	3.5	3.7
④	教材は発問に工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.4	3.7	3.9	3.6	3.7
⑤	板書やプリントに工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.3	3.8	3.9	3.7	3.7
⑥	私語や居眠り、起立回答などの指導がなされ、規律ある授業である。	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7	4	3.7	3.6

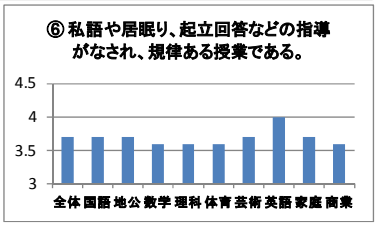






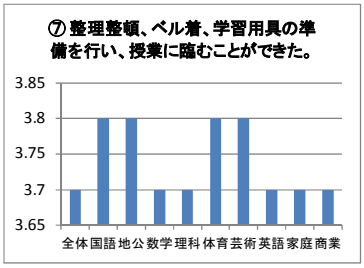


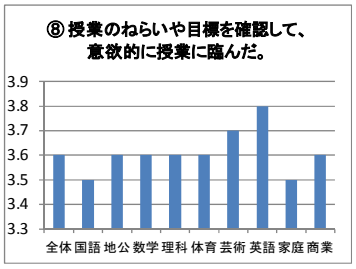


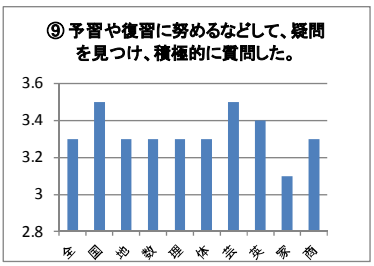


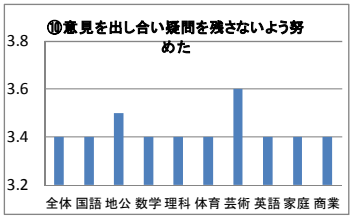
【自分自身について】

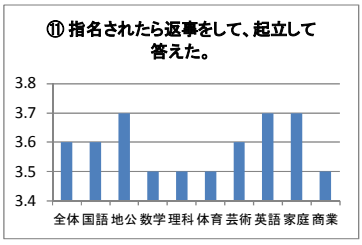
		全体	国語	地公	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	商業
⑦	整理整頓、ベル着、学習用具の準備を行い、授業に臨むことができた。	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7
⑧	授業のねらいや目標を確認して、意欲的に授業に臨んだ。	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.8	3.5	3.6
⑨	予習や復習に努めるなどして、疑問を見つけ、積極的に質問した。	3.3	3.5	3.3	3.3	3.3	3.3	3.5	3.4	3.1	3.3
⑩	意見を出し合い、疑問を残さないように努めた。	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.6	3.4	3.4	3.4
⑪	指名されたら返事をして、起立して答えた。	3.6	3.6	3.7	3.5	3.5	3.5	3.6	3.7	3.7	3.5
⑫	発言するときは、語尾までしっかり答えるよう努めた。	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.7	3.5
⑬	毎時間の終わりには、ねらいや目標を参考に達成度を確認した。	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6	3.5	3.4	3.5

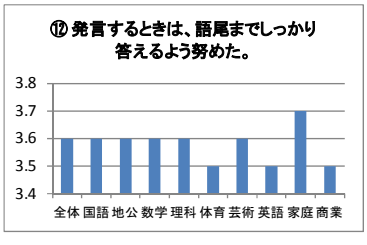


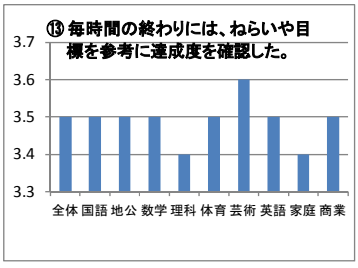








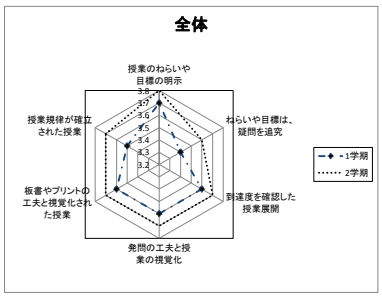


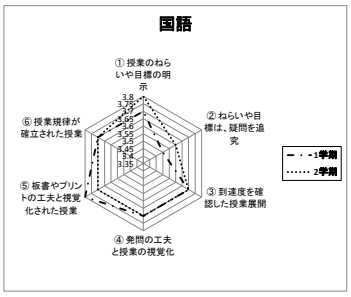


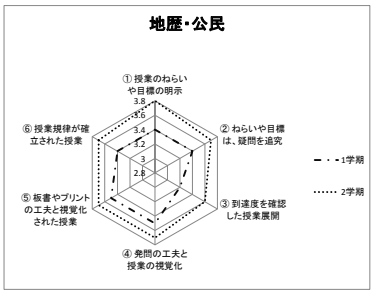
授業アンケート比較

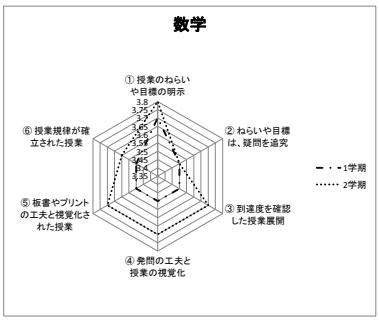
【授業・指導について】

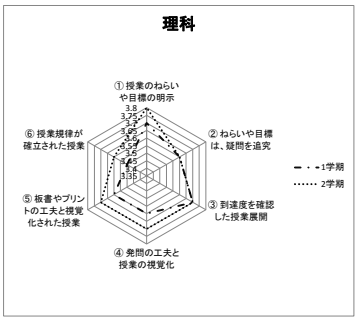
	項目	全体		国語		地公		数学		理科		体育		芸術		英語		家庭		商業	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
①	授業のねらいや目標の明示	3.7	3.8	3.7	3.8	3.4	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.5	3.6	3.7	3.7	3.8	3.9	3.7	3.8	3.7	3.6
②	ねらいや目標は、疑問を追究	3.4	3.6	3.5	3.6	3.4	3.7	3.5	3.5	3.6	3.6	3	3.2	3.4	3.5	3.7	3.9	3.3	3.4	3.5	3.4
③	到達度を確認した授業展開	3.6	3.7	3.7	3.7	3.2	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.5	3.5	3.6	3.8	3.7	3.9	3.5	3.6	3.7	3.7
④	発問の工夫と授業の視覚化	3.6	3.7	3.7	3.7	3.5	3.7	3.5	3.7	3.6	3.7	3	3.4	3.7	3.7	3.8	3.9	3.5	3.7	3.7	3.7
⑤	板書やプリントの工夫と視覚化された授業	3.6	3.7	3.8	3.7	3.5	3.7	3.5	3.7	3.6	3.7	3	3.3	3.7	3.8	3.8	3.9	3.6	3.7	3.7	3.7
⑥	授業規律が確立された授業	3.5	3.7	3.7	3.7	3.4	3.7	3.5	3.6	3.5	3.6	3.4	3.6	3.6	3.7	3.7	4	3.5	3.7	3.6	3.6

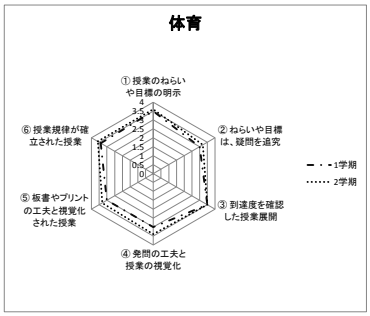


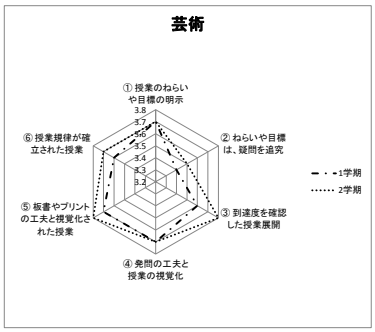


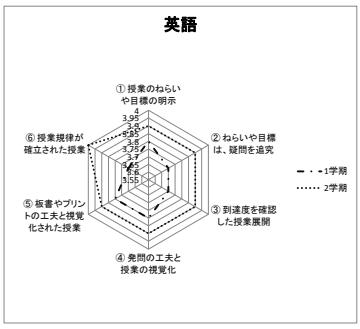


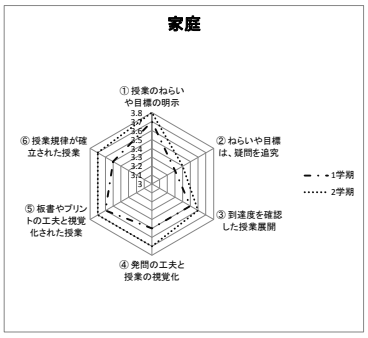


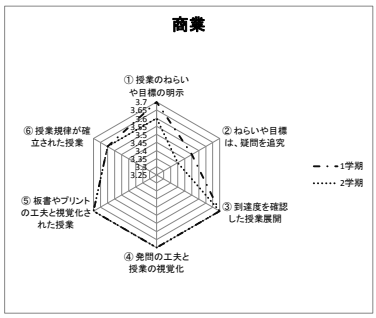








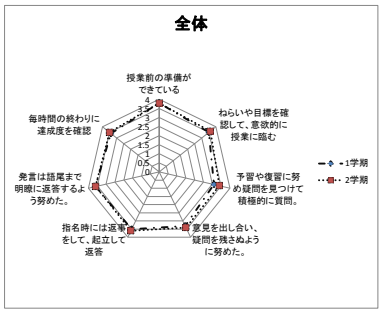


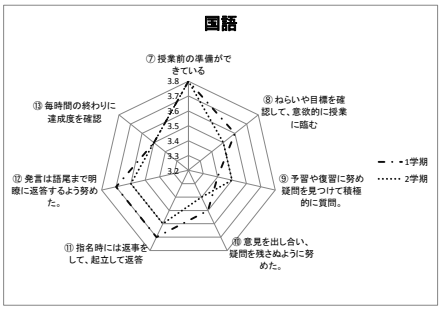


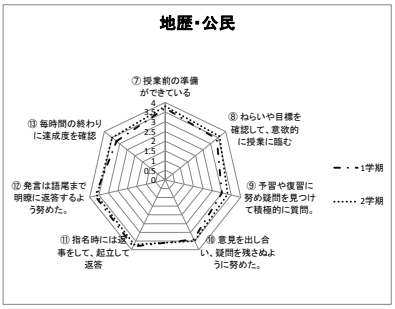
授業アンケート通年比較

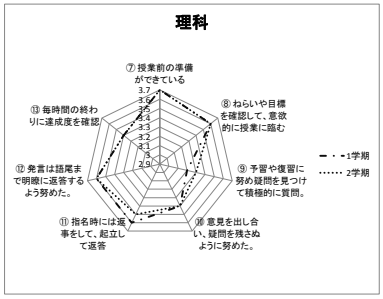
【自分自身について】

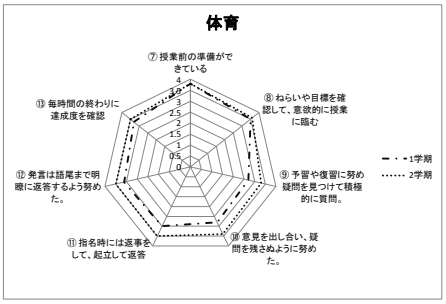
	項目	全体		国語		地公		数学		理科		体育		芸術		英語		家庭		商業	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
⑦	授業前の準備ができている	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8
⑧	ねらいや目標を確認して、意欲的に授業に臨む	3.5	3.6	3.6	3.5	3.4	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	3.5	3.8	3.4	3.5	3.6	3.6
⑨	予習や復習に努め疑問を見つけて積極的に質問。	3.1	3.4	3.4	3.5	3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.3	2.7	3.3	3.4	3.5	3.2	3.4	2.8	3.1	3.3	3.4
⑩	意見を出し合い、疑問を残さぬように努めた。	3.3	3.4	3.5	3.4	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.4	2.8	3.4	3.5	3.6	3.3	3.4	3	3.4	3.4	3.4
⑪	指名時には返事をして、起立して返答	3.5	3.6	3.7	3.6	3.8	3.7	3.5	3.5	3.6	3.5	3	3.5	3.6	3.6	3.5	3.7	3.6	3.7	3.5	3.6
⑫	発言は語尾まで明瞭に返答するよう努めた。	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.1	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.6	3.7	3.6	3.6
⑬	毎時間の終わりに達成度を確認	3.4	3.5	3.5	3.5	3.2	3.5	3.4	3.5	3.4	3.4	3.3	3.5	3.6	3.6	3.4	3.5	3.2	3.4	3.5	3.5

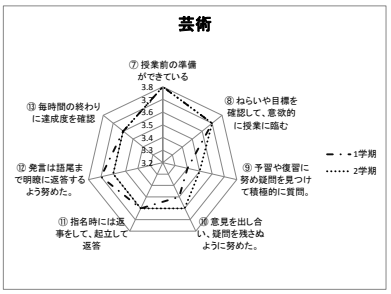


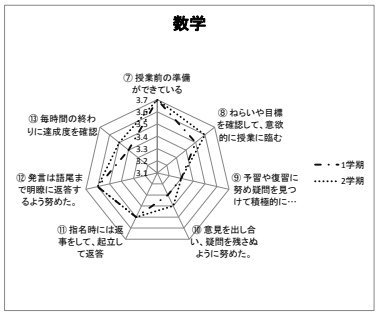


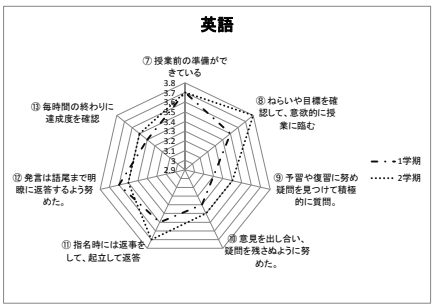


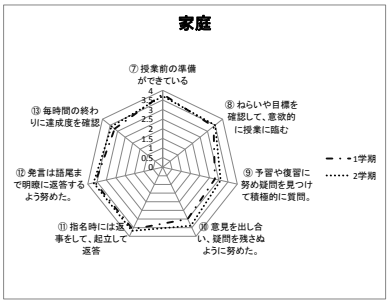


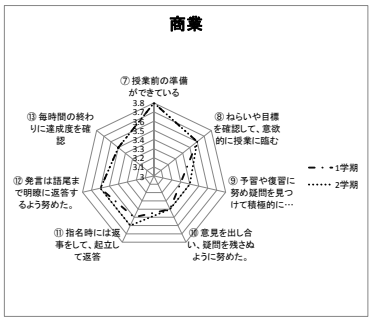












各教科の研究主題

国語科

① 授業アンケートの分析
全体的に見たときにやや評価が低かったのが、②「提示されるねらいや目標は疑問を追求する形が多い」の項目であった。古典分野等においては、古文・漢文の内容を正しく読み取った上での読解（疑問の追求）が必要なため、知識の定着や正確な読み取りが必要な場面もあり、このような結果になったと考えられる。また、全体集計には現れてこないが、現代文よりも古典の方が評価が低い傾向にあり、生徒の興味関心の低さも表れていると考えられる。
② 授業アンケートを基にした授業の改善プラン
・基礎学力の定着のため、ふりかえりをより一層充実させる。 ・生徒の実態をよく理解した上で教材を精選する。 ・古典分野への興味関心を喚起するべく教材を工夫する。
③ 授業の研究課題
個々の思考を話し合い等によって共有することで深め、客観化させることを目指す。

地歴公民科

① 授業アンケートの分析
「生徒の到達度を確認しながら授業が進められている」という項目の評価が低い。
② 授業アンケートを基にした授業の改善プラン
振り返りを重視した授業を展開する。
③ 授業の研究課題
授業における効果的な振り返りの工夫

数学科

① 授業アンケートの分析	「授業・指導」の各項目については生徒の成績状況から考えるともう少し評価が低くなってもおかしくない。数値上昇と成績向上を目指したい。 「自分自身について」の疑問を残さないように努めたの数値がもっとも低いので、授業中に解決できる雰囲気作りを心掛けたい。
② 授業アンケートを基にした授業の改善プラン	・基礎・基本の徹底 ・質問しやすい、相談しやすい雰囲気作り ・振り返り学習の充実 （各授業ごと・単元ごと） ・家庭学習の必要性を持たせる
③ 授業の研究課題	学び合いと振り返りによる課題解決型の授業

理科

① 授業アンケートの分析	目標の提示、到達度の確認など概ね良好（３．６～３．７）だが、自ら学習に向かう姿勢（予習復習３．２、意見を出し合う３．４）に課題がある。
② 授業アンケートを基にした授業の改善プラン	生徒同士の活動の場を工夫し、より主体的により深く学び理解することを目指す。
③ 授業の研究課題	より主体的な深い学びにつながる生徒同士の活動の場の工夫

保健体育科

① 授業アンケートの分析

教科の特性もあるかとは思うが、他教科と比較すると全体的に数値が低く表れておりねらいや目標、発問、教材等に工夫の必要性を感じる。

② 授業アンケートを基にした授業の改善プラン

これから球技選択の授業に入るに当たり、各活動場所にホワイトボードを設置し、本時の目標を提示する。また、グループ活動の場面を作り、どのような活動をすれば目標達成に近づけるか等の発問をすることで生徒が自ら主体的に課題解決に向けて運動することができるようにする。

③ 授業の研究課題

生徒が主体的、且つ意欲的に活動できる授業の工夫

英語科

① 授業アンケートの分析

・ねらいや目標を明示する点においてはよいが､疑問追求の形にする点で不十分である。また、到達度を確認した授業展開が十分にできていない。発問の工夫や、板書やプリントの工夫、授業の視覚化に関してはある程度の評価だったので今後もさらに見やすい工夫・発問の工夫を研究していきたい。

② 授業アンケートを基にした授業の改善プラン

・ねらいや目標提示に関しては、自分の考えを表現する言語活動においては、疑問追求の形にしづらい点がある｡文法・表現等の知識を学習する際には心がけていきたい。

③ 授業の研究課題

プレゼンやディベートをするために、英語での発話を促す効果的な指導の工夫はどうあればよいか。

家庭科

① 授業アンケートの分析
アンケートの⑦⑪⑫は、比較的高い評価であったが、③⑥⑧⑨⑪は、他教科や例年よりも低い。
② 授業アンケートを基にした授業の改善プラン
学習目標の提示はしているが､到達度や達成度の確認をあまり行っていなかったため、毎時間実施する。学習目標の内容の工夫も必要である。
③ 授業の研究課題
学習意欲を引き出す学習目標の提示と到達度を確認する振り返りの工夫

商業科

① 授業アンケートの分析
一方的な授業にならないように注意しているが、アンケート結果から「疑問を追求する」、思考を促す展開が少ないことがわかった。
② 授業アンケートを基にした授業の改善プラン
・思考を問う場面の設定 ・話し合いをしやすい環境作り
③ 授業の研究課題
生徒が主体的に「考える」授業展開

各教科の単元指導計画

国語科

授業者名	柴田　陽子	
教科（科目）名	教科　　国語	科目　　古典Ｂ
授業クラス名	２年　Ａ組　文系	教室　　１０月７日　３校時
単　元　名 （時間数）	「門出」（更級日記）　　時数（５／５）　時間	
単元の指導目標	・平安時代の日記文学の概要を理解する。 ・語句・文法事項を確認しながら正しく読み取る。 ・この文章からうかがえる作者の思いを読み取る。	
単元の指導計画 （指導項目）	・平安時代の女流日記文学の概要を確認する。・・・１時間 ・語句や文法を確認しながら全体を読解する。・・・３時間 ・この文章からうかがえる作者の思いについて、話し合いをもとにまとめる。　・・・１時間（本時）	

地歴公民科

授業者名	佐　藤　敦　史	
教科（科目）名	教科　　公民	科目　現代社会
授業クラス名	１　年　Ｃ　組	教室　９月２５日(水)６校時
単　元　名 （時間数）	第１節　民主政治の基本原理 ９　人権と法を守る裁判所　　時数　２　時間	
単元の指導目標	民主政治の基本原理を理解するとともに、司法の役割と法の機能、人権保障とその問題点（死刑制度）について考えることができる。	
単元の指導計画 （指導項目）	・司法権の独立と裁判所の身分保障、裁判のしくみ　（１時間） ・法律にもとづき、裁判する司法権（１時間） 本時　２／２	

数学科

授業者名	石　崎　　諒	
教科（科目）名	教科　　数学	科目　　数学 A
授業クラス名	１年　ABC 組（習熟度別）	教室　　９　月　２５日　３校時
単　元　名 （時間数）	数学 A　場合の数　　時数　（１３／１５　時間）	
単元の指導目標	最短経路の本数を求めることができる。	
単元の指導計画 （指導項目）	１．集合とその要素の個数・・・・２時間 ２．場合の数・・・・・・・・・・４時間 ３．順列・・・・・・・・・・・・４時間 ４．組合せ・・・・・・・・・・・４時間（３／４　時間） ５．補充問題・・・・・・・・・・１時間 本時　１３／１５時間	

理科

授業者名	奈良　紳也	
教科（科目）名	教科　理科	科目　化学基礎
授業クラス名	１　年　E　組	教室　９月１３日　４校時
単　元　名 （時間数）	物質量　　時数　　５　時間	
単元の指導目標	物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解させる。	
単元の指導計画 （指導項目）	１　アボガドロ数と物質量 ２　物質量と質量（本時） ３　物質量と気体の体積 ４　溶液の濃度 ５　溶解度　　本時　２／５	

保健体育科

授業者名	金　野　拓　真	
教科（科目）名	教科　保健体育	科目　体育
授業クラス名	３年　Ｃ組	第一体育館　９月　２５日　４校時
単　元　名 （時間数）	球技「ネット型」（バレーボール）　　時数　　１０　時間	
単元の指導目標	（１）役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 （２）生涯にわたって運動を豊かに継続するためチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 （３）球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	
単元の指導計画 （指導項目）	(時間) ①オリエンテーション ②簡易ゲーム ③パス、サーブ、簡易ゲーム ④パス、サーブ、簡易ゲーム ⑤スパイク、ブロック、簡易ゲーム ⑥守備フォーメーション簡易ゲーム ⑦攻撃フォーメーション簡易ゲーム ⑧まとめのゲーム ⑨まとめのゲーム ⑩まとめのゲーム、振り返り 本時　３／１０	

英語科

授業者名	加賀谷　達子	
教科（科目）名	教科　　英語	科目　　コミュニケーション英語Ⅱ
授業クラス名	２　年　A　組	教室　　９月１３日　５　校時
単　元　名 （時間数）	Lesson 3　Saint Bernard Dogs　　時数　　13　　時間	
単元の指導目標	・セントバーナード犬の救助犬としての歴史を理解する。 ・受動態の分詞構文、完了形の分詞構文を含む文を読んで意味を理解する。	
単元の指導計画 （指導項目）	・導入 ・各 part 新出語句確認、内容把握、表現活動 ・受動態の分詞構文の解説とその表現活動 ・完了形の分詞構文の解説とその表現活動 ・練習問題 ・ALT に紹介する文「大館の誇りに思うこと」をまとめる 本時　１３　／１３	

家庭科

授業者名	能島　直美	
教科（科目）名	教科　　家庭科	科目　　家庭基礎
授業クラス名	１　年　D　組	教室　　９月２６日　１校時
単　元　名 （時間数）	第 8 章　経済生活を営む　　時数　　５　　時間	
単元の指導目標	（１）生活の基盤となる家計管理の重要性を認識する。 （２）契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 （３）大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。	
単元の指導計画 （指導項目）	（１）計画的に使う　　２ （２）現代の消費生活　　２ （３）これからの消費生活と環境　１　　本時　３　／　５	

商業科

授業者名	中嶋　忠宗	
教科（科目）名	教科　　商業	科目　　マーケティング
授業クラス名	２年　ＤＥ組	教室　　９月１８日　４校時
単　元　名 （時間数）	第６章　仕入計画と商品管理　　時数（３／８時間） 第１節　仕入計画	
単元の指導目標	２系統６種類の仕入方法の特徴を理解することができる。	
単元の指導計画 （指導項目）	第１節　仕入計画 １　仕入計画の意味　　１時間 ２　仕入計画の手順　　１時間 ３　仕入計画の内容　　１時間（１／１時間） 第２節　商品管理 １　商品管理の意味　　１時間 ２　在庫管理　　２時間 ３　商品の物的管理　　２時間　　本時　３／８時間	

１０月２１日の授業研究について

高校研究部

１　研究の目的

①学習の見通しが明確になるような学習目標の提示

②学び合いの中で学習課題を深く思考できるようにするための発問の工夫

の２点に各教科で取り組む。

各教科で提出いただいた研究主題も基本的にこの２つの取り組みに関わるものでしたので、各教科での授業改善への取り組みをお願いします。

２　授業研究について

①　研究授業

１０月２１日（月）　６校時　（１４：１５～１５：０５）

国語(古　典Ｂ)授業者　柴　田　陽　子　　クラス　２年Ａ組（国際・人文コース）

公民(現代社会)授業者　佐　藤　敦　史　　クラス　１年Ｂ組

理科(物　理　)授業者　小　野　耕　右　　クラス　３年ＡＣ組（理数コース　　）

※参観は全職員　参加一覧を参照して下さい

参観者は、授業参観カードなどを利用して、授業の観察・分析をお願いします。

②　授業研修会

１０月２１日（月）１５：１５～１６：００（４５分）　　会議室

※会議室を職員玄関側から国語・公民・理科の３会場に区分けする

※研修会終了後　全体協議を行うので速やかに椅子・机を復元する

授業研修の方法はワークショップ形式

検討の視点　授業の展開について

①　研究目標への取り組みはどうであったか

②　教科の研究主題に基づく授業展開であったか

検討会の進行

①　各授業（国語・公民・理科）の参観者は、それぞれ自分の参観した授業の研修会に参加する

②　会議室を３つに分割して、各机を授業ごとのワークショップスペースに分けて設置する。

③　進行役・記録者・報告者は各スペースで選ぶ。

④　研修の進行

(1)授業者から授業の主題・配慮事項・授業の反省を聞く。　（５分）

(2)検討の視点の項目①②の、Ａ良かった点　Ｂ改善を要する点の討議（２５分）

(3)各スペースの討議のまとめを行う（教科主任）　（　５分）

(4)助言者に指導をお願いする　（１０分）

各ワークショップスペースに記録をお願いする

各教科で(1)～(4)の集約を記録する。

ワークショップの進め方

(1)　各テーブルで参加者が授業について気付いたこと（良かった点＝青、改善点＝赤）を付箋紙に各３つずつ記述

(2)　模造紙(視点の項目ごとにＡＢにスペースが設定）に各自が説明しながら付箋紙を貼り付ける

(3)　進行役が中心になり、付箋紙をグルーピングする。

(4)　話し合いをまとめる

(5)　各テーブルの代表者が発表する

国語科学習指導案

実施日時：令和元年 10 月 21 日（月）６校時
場所：２年Ａ組教室
対象：２年Ａ組文系
授業者：柴田　陽子
教科書：新探求古典Ｂ　漢文編（桐原書店）

１　単元名　　漢文を読解し鑑賞する力を養う。（「春夜宴桃李園序」李白）

２　単元の目標
・四六駢儷文特有のリズムを読み味わい、表現の特徴を理解する。（知識・理解）
・文章の内容を正しく読み取り、李白の人生観をまとめる。（読む能力）【指導事項のウ】
・漢文の鑑賞を通して、人間や自然に対するものの見方、考え方や日本の文学への影響について関心を高める。（関心・意欲・態度）

３　単元観
「春夜宴桃李園序」は駢儷文として名高い文章であり、まとまった分量の本格的な漢文を読解し鑑賞する力を養うためにふさわしい教材と考えた。また、駢儷文はリズミカルかつ華麗な文章であるため、その名句は日本の文学作品等にも多く引用されており、漢文が日本文学に与えた影響について考えることを通して、漢文を学ぶ意義についても気付かせてくれる教材として最適だと考えている。

４　生徒観
男子３名、女子１１名の文系クラスである。真面目に授業に取り組む生徒が多く、国語への関心も高い。一方で、漢文には苦手意識を持っている生徒が多い。本単元では、特有のリズム感のある駢儷文を読むことで漢文の魅力に気付いてもらいたい。

５　単元計画（総時間数４時間）
・駢儷文の特徴について理解し、四六駢儷文特有のリズムを味わいながら音読する。(1/4)
・語句や句法を確認しながら全体を読解する。(2/4)
・この文章からうかがえる李白の人生観について、話し合いをもとにしてまとめる。(3/4)本時
・この文章に影響を受けた日本の文学作品と比較し、気づいた点についてまとめる。(4/4)

６　単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
駢儷文特有のリズムを味わうとともに、漢文の鑑賞を通して日本の文学への影響等について理解しようとしている。	漢文を正しく読解し、文章をもとに李白の人生観について考え、理解している。	四六駢儷文の表現の特徴について正しく理解している。

７　本時の学習（３／４時間）
(1)　ねらい　　話し合いを通して、作品に表れた筆者の考え方について理解を深めることができるようになる。

(2)　学習過程

	学習活動	指導上の留意点	評　　価
導入	・前時までの内容をふりかえり、本時の目標を確認する。	・前時までの内容を口頭で確認させる。 ・本時の目標を板書し、プリントを配付する。	
本時の目標：文章をもとに李白の人生観について考え、話し合いを通して考えを深める。			
展開	・一文ずつ音読する。 **【問】本文をもとに、李白の人生観について考えてみよう。** ・個人で考えた後でグループになり、意見を交わす。 ・班員を替えたグループ２で改めて意見を交わす。 ・もとのグループに戻り、新たな意見を踏まえて班としての考えをまとめる。 ・班ごとに発表する。	・四六文のリズムを意識しながら音読するよう指示する。 ・グループになった際に伝えやすいよう、あくまで本文の表現を根拠に自分の考えを記入するよう促す。 ・読みを深めるための話し合いができるよう、グループの状況に応じて助言する。 ・自らのグループの意見について責任をもって説明するよう促す。	・李白の人生観について本文の表現を根拠に考え、まとめることができる。【読む能力】 （プリント・観察・発表）
まとめ	・最初に自分が書いたものと比較し、違いに線を引く。 ・本時の内容を振り返り、次回の内容を確認する。	・考えの深まりに気付かせる。 ・プリントを回収する。	

「現代社会」学習指導案

実施日時：令和元年１０月２１日（月）６校時
場　　所：１Ｂ教室
対　　象：１年Ｂ組
授 業 者：佐藤　敦史
教 科 書：高等学校　現代社会（清水書院）

１　単元名　　第２章　現代の民主政治と政治参加の意義
　　第２節　国民の政治参加と地方自治　　２　政党政治と選挙

２　単元の目標

民主政治の基本原理に基づきながら、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解するとともに、民主政治の前提となる個人の在り方について、個人と国を中心に考察し、また、民主社会に主体的に生きる人間としての在り方生き方について考察する。

３　単元観

「政党政治と選挙」の単元は、選挙権年齢が満１８歳以上に引き下げられたことを踏まえて、自分が暮らしている地域の在り方や日本・世界の未来について調べ、考え、話し合うことによって、国家・社会の形成者として現在から未来を担っていく公共の精神を育み、行動につなげていくことを目標にしている。自分の政治的視点を明確にすることで、自らの政治的思考力を鍛えることのできる単元である。

４　生徒観

第１学年Ｂ組、男子１２名、女子１４名、合計２６名のクラスである。男子は積極的に発言する生徒が多く、授業に意欲的に取り組んでいる。女子は物静かな生徒が多く、控え目ではあるが、内容を理解しようと集中して授業に臨んでいる。女子に現代社会を苦手とする生徒がおり、基本用語を暗記できず苦労しているが、発問に対しては自ら答えようと努力する姿勢がみられる。

５　単元計画

２　政党政治と選挙　　（全３時間）
選挙の仕組みと課題・・・１時間（本時）
政党と選挙制度・・・・・１時間
世論と政治参加・・・・・１時間

６　単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・実施された選挙の例などを参考にしながら、選挙制度や一票の価値などの課題について、関心が高まっている。	・選挙制度と関連させながら、政党の政治公約における意義について考察している。	・低い投票率や一票の価値、選挙の課題について、資料を分析し、適切に活用している。	・国民の政治的な意思の集約、争点の明確化などに果たしている政党の役割や利益集団の働きについて理解している。

7　本時の学習

・ねらい

民主政治の基本である選挙を理解し、それがどのように行われているかを捉えることができる。また、比例代表制の模擬選挙を基に、自分の考えと実際の結果の違いを考え表現することができる。（思考・判断・表現）

・展　開

	学習活動	指導上の留意点	評　　価
導入15分	・本時の目標を確認する。 本時の目標：選挙制度を理解し、実際の投票を考察してみよう。		
	・プリント(学習活動 1) 架空の政党から自分の考えと合致するものに投票する。	・比例区の公約を確認し、投票を行い開票の結果を公表する。 ・比例区のドント式を説明する。どのように当選者が決まるのか確認させる。	
	・プリント(学習活動 2) 各政党の党首、代表を写真から選択し、日本の政党を確認する	・党首 、代表の写真から、政党への関心を高め主な日本の政党を紹介する。	
展開30分	・プリント（学習活動 3) 参議院議員選挙の各政党の公約から模擬投票（比例代表制）を行い、自分の考えとクラスの選挙結果の違いを考える。	・各政党（今回は4 つの政党）の選挙公約をグループに 1 つずつ配付し、それをシートに書かせ発表させる。 ・難しい用語などは机間巡視の中でグループごとに説明し、理解を促す。 ・模擬投票を実施し、自分の考えとクラスの結果を比較させる。	
	・プリント(学習活動 4) 国政選挙の結果を確認し、それについてどう考えたかを整理する。	・自分の考えと国政選挙の結果を比較させ、その違いに気付かせる。	
	主発問：クラスの結果と国政選挙の結果の違いについてどのように考えたのか。		
まとめ5分	・振り返りを行い、今日の授業の評価をする。	・学習したことを基に、有権者になるに当たって考えたことをまとめ、自己評価させる。	・選挙に対する問題意識を持ちながら、評価をまとめている。（思考・判断・表現）

・本時の評価（評価方法）

評価の観点	評価規準		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる［A］	おおむね満足できる［B］	
思考・判断・表現	資料をもとに、学習課題を多角的に考えて、自分の意見（主張）をまとめることができる。	資料をもとに、学習課題を理解し、感想をまとめることができる。	各政党の公約を分かり易く説明し、学習課題に取り組み易くする。

「物理」学習指導案

実施日時：令和元年１０月２１日（月）６校時
場　　所：物理室
対　　象：３年ＡＣ組理数コース
授 業 者：小野　耕右
教 科 書：改訂版　物理（数研出版）

１　単元名　　第５編　原子

２　単元の目標
電子、原子及び原子核に関する現象を観察、実験などを通して探究し、原子についての基本的な概念や原理・法則を理解させる。

３　単元観
本単元では、電子が電荷や質量をもつこと、電子や光が粒子性と波動性の両方の性質をもつこと、原子の構造や原子核の構成などを理解させることが主なねらいである。歴史的な実験を振り返ることを通して、現代物理学へつながる本単元の理解を深めさせたい。

４　生徒観
第３学年普通科理数コース物理選択者１８名のクラスである。自然科学に興味・関心の高い生徒が多い。しかしながら、量的な思考力に非常にばらつきがあり、それが学ぶ意欲に大きく影響している。よって本時では、原子分野の最初の時間として、既習単元を振り返ることを通して思考力・判断力・表現力を養い、原子分野への興味・関心を高め、この単元を通して探究する問いをもたせたい。

５　単元計画

第１章　電子と光	
光とスペクトル	１時間（本時）
電子	２時間
光の粒子性	２時間
Ｘ線	１時間
粒子の波動性	２時間
第２章　原子と原子核	
原子の構造とエネルギー準位	２時間
原子核	１時間
放射線とその性質	１時間
核反応とエネルギー	２時間
素粒子	１時間

６　単元の評価規準

関心・意欲・態度　・・・	原子の構造に関する科学的探究のプロセスに興味・関心を抱き、意欲的に探究しようとしている。
思考・判断・表現　・・・	原子構造とスペクトル、原子核、素粒子について理解し、それらを発見した歴史的な実験と関連づけて考察し表現できる。
観察・実験の技能　・・・	スペクトル観察や半減期の実験などを通して、原子構造や原子核反応の概念を形成している。
知識・理解　・・・・・・	スペクトルと電子のエネルギー準位との関係や、原子核の崩壊および核反応について理解している。

7　本時の学習

(1)　ねらい

太陽光などのスペクトルの観測結果について話し合うことを通して、そこから分かることを理解することができる。また、スペクトルについて新たな疑問をもつことができる。

(2)　展　開

	学習活動	指導上の留意点	評　　価
導入10分	学習課題１　太陽光スペクトルから分かることは何か。 ・既習の知識から導かれることを考える。	・連続スペクトル、線スペクトルを波長や振動数と関連付けながら確認させる。	
展開30分	演示実験　吸収スペクトル ・演示実験から導かれることを考える。 ・３人グループとなり、３つの視点から話し合い、太陽光スペクトルからわかることを具体的にまとめる。 ・グループの考えを発表する。	・吸収スペクトルが起こる状況を確認させる。 ・３人にそれぞれ異なる内容のプリントを配付し、それぞれ責任をもって担当させる。 ・ホワイトボードにまとめさせる。	・グループ全員で話し合って、考えをまとめている。 （思考・判断・表現）
	学習課題２　スペクトルが赤方に移動していることは何を示しているか。 ・スペクトルの観測結果から導かれることを考える。	・スペクトル全体が赤方に移動したことを、波長や振動数の変化と関連付けて考えさせる。	
まとめ10分	・各グループの発表を参考に、各自でまとめる。 ・新たな疑問を出す。	・学習したことをもとに、分かることをまとめさせ、スペクトルについての新たな疑問を引き出す。	

各教科の成果と課題

国語科

① 授業の研究課題

個々の思考を話し合い等によって共有し、深め、客観化させることを目指す。

② 今年度の取り組み

・生徒たちが興味関心をもって読むことができるよう教材を精選し、授業の理解度を高めるためのプリントやわかりやすい板書を心がけた。また、理解度をはかるため計画的に単元テスト等を実施した。
・生徒たちが意見を交わしやすいよう環境作りに努め、ペアワークやグループワークを多く取り入れた。
・３年生の現代文では、読解を深めるために抽象的な文章の意味を具体化させることに力を入れ、生徒の思考の根拠も説明させた。
・国語表現では「話す」ことに重点をおいて、物事の紹介や説明をさせた。

③ 成果と課題

・個で考えてからペアやグループで相談したり確認したりする時間を意識的に設けたため、意見を補い合い、個の思考を深めることができた生徒が見て取れた。
・授業内での関心の高さが考査の結果に結びついていない生徒もおり、基礎基本を定着し、理解度を高めるためにはより一層の工夫が必要だと感じた。

④ 次年度の取り組み

・今年度の取り組みを継続していくとともに、目標の提示とふりかえりについてはより一層工夫し、充実させていきたい。

地歴公民科

① 授業の研究課題

振り返りをどのように授業の中に組み込んでいくか。

② 今年度の取り組み

・授業の理解度を高めるための指示や教材を工夫し、最後に授業内容を文章でまとめさせたりまとめテストを実施したりした。また、定着しているか考査にも反映させた。
・自分もしくは身近なことに関連させて考察させ発表させた。
・発表の際、主語と述語に注意させた。

③ 成果と課題

・世界史や倫理では授業展開が順調で生徒にも積極性がみられるようになった。
・文章や発表をうまくまとめられる生徒が増えた。
・日本史や地理では大幅に進度が遅れている。
・授業内での関心が考査や模試で発揮されていない。下位層の取り組みが進まない。

④ 次年度の取り組み

・今年度の取り組みを継続する。
・学力の定着を図る方策として、生徒の深い学びを導く授業を模索していく。
・生徒が自力で知り組むことができるように、解決できる課題を設定し、振り返りの深化を図ることが必要である。

数学科

① 授業の研究課題

学びあいと振り返りによる課題解決型の授業

② 今年度の取り組み

・研究課題に基づいた研究授業を実施し、教科内で協議
・授業アンケートの分析

③ 成果と課題

成果

授業アンケートおよび研究協議から、学び合いを取り入れることで本時のねらいが達成しやすく、生徒の理解度も高まった。

課題

振り返りとして問題を解くだけでなく、振り返りを共有する場面も必要

家庭学習の必要性を持たせる授業展開の工夫

④ 次年度の取り組み

家庭学習の必要性を持たせる授業展開の工夫

理科

① 授業の研究課題

より主体的な深い学びにつながる生徒同士の活動の場の工夫

② 今年度の取り組み

各教科担任において生徒同士の活動を活発にできるような実践を行い、特に１年生化学基礎と３年生物理において、研究授業として授業公開と研究協議を行った。

③ 成果と課題

生徒同士が協働するしかけをつくることによって、より活発な活動が行なわれるようになった。しかしながら、ねらいをはっきりとさせ、時間的な配分を適切に行うことが課題としてあげられた。

④ 次年度の取り組み

自ら学習に向かう姿勢を引き出すことに、引き続き取り組みたい。

保健体育科

① 授業の研究課題

生徒が主体的、且つ意欲的に活動できる授業の工夫

② 今年度の取り組み

球技選択の際は最大で３つの箇所に分かれての活動になるが、全ての箇所にホワイトボードを設置し、目標や活動内容の流れを提示した。また、技能練習の際にはグループごとに課題解決に向けて話し合いやお互いに教え合うという場面を設定した。

③ 成果と課題

ホワイトボードに本時の目標や活動内容の流れを提示することで、生徒は見通しをもって授業に臨むことができていたと感じる。ただ、授業の終わりの方になるとゲームをすることがメインとなってしまい、目標の提示に至らなかった時間もある。運動量を確保できたという意味では良かったかもしれないが、そのような中でも状況に応じた目標を提示しなければいけないということが課題として考えられる。

また、技能の練習の場面では、グループ内でお互いに動きを教え合うなど課題解決に向けて生徒自らが活動する場面も見ることができた。

④ 次年度の取り組み

今年度、取り組んだことを継続して実施するとともに、球技選択の授業だけではなく、ダンスや水泳など他の領域においても取り組んでいきたい。

芸術科

① 授業の研究課題

・学び合いのなかで気づける場面を設定する

② 今年度の取り組み

美術では高教研の研究授業も実施した。木炭デッサンを題材とし、見通しをもった学習展開や生徒同士で学びを深め合う場面があった。

音楽では器楽のアンサンブルを通して、生徒同士で教えあうことで理解を深めることができた。

③ 成果と課題

学びあいの中で気づき、理解する生徒は多いが、それを表現するための技能を持ち合わせた生徒は少ない。

④ 次年度の取り組み

今年度の取り組みを更に発展させつつ、生徒の技能面をどう向上させていくかを念頭に置いた取り組みについても実施したい。

英語科

① 授業の研究課題

プレゼンテーションやディベートをするために、英語での発話を促す効果的な指導はどうあればよいか。

② 今年度の取り組み

ディベートで必要とされる表現を手順を踏みながら習得・練習する活動や、クラス全体での紙芝居・ドラマの発表活動に取り組んだ。各レッスンのトピックや講話（国際教育）の内容について意見を発表（英語の難易度が高い場合は日本語も認める)、また定期考査においてもライティングを評価する設問を入れた。

③ 成果と課題

○生徒は指示通りに取り組んだ。いい機会になった。
○自信を持って発表する生徒がいる一方で●人前での発表、多数の生徒を前にした発表に慣れておらず、暗記した内容を話している。
●ディベートの題材が自分に関することや身近なことであり高度な内容の題材にできなかった。
●新共通テストに対しての不安感があり十分に取り組めないでしまった。
●３年生英語表現Ⅱの教科書にあるペアワーク（意見交換の活動）に取り組まなかった。
受験を意識した教材・授業展開の再考が必要)

④ 次年度の取り組み

・ディベートの内容を高度な題材で取り組む。
・全体の前で物怖じせずに自信を持って発表できるように機会を増やす。
・共通テストに向けての研究・対策

家庭科

① 授業の研究課題

学習目標の提示と到達度の振り返りの実施。

② 今年度の取り組み

・学習目標の提示と工夫
・授業の振り返り
・到達度、達成度の確認

③ 成果と課題

・学習目標は、毎時間提示し、記入・音読させてから授業を行うことができた。
・授業の振り返りの時間を取り、学んだことの確認を行うように心がけたが、後半はあまりできていなかった。
・到達度、達成度の確認をプリントで行った。学期によって確認方法を変えてみたが、次の時間の初めに確認する方法が最も効果的であり、定着度もよかった。分野によっては、小テストを行うことも検討したい。

④ 次年度の取り組み

・実験・実習をより多く取り入れ、実践的・体験的な学習活動を充実させる。
・ホームプロジェクトを通して、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度と問題解決能力の育成。
・小テストの実施。

商業科

① 授業の研究課題

・生徒を主体的思考に導く授業展開。

② 今年度の取り組み

・他科目の内容を横断して知識を活用する。（マーケティング→課題研究）
・図書館等の校内にある資料を利用した授業。（課題研究）
・プロジェクタ、電子黒板、ＰＣの画面転送などのＩＣＴ機器の活用。（情報系の科目やビジネス実務など）

③ 成果と課題

成果
・狙い通りの理解度は得られなかったが、学び合いを行うことで、積極的な姿勢で取り組むことができるようになった。
・教材を瞬時に提供できたため時間を有効に活用したテンポの良い授業を展開できた。
課題
・自ら家庭学習に向かう姿勢を育む授業展開の工夫や仕掛けが必要である。
・より効果的な授業を行うために、必要な機器を揃えたい。

④ 次年度の取り組み

・効果的な授業を行うため、ＩＣＴ関連機器を充実させたい。（提案・要望）
・生徒が目標をもって取り組める授業にするための工夫や授業展開を考え実施する。

平成３１年度高等学校初任者研修「校内研修実施報告書」

初任者氏名　（　　石　崎　　諒　　）

実施月日（曜日）	研修内容	領域	研修方法・形態	時間割内・放課後の区別		研修時間	研修指導者
				内	放		
4/2 （火）	初任者研修オリエンテーション	①	講義	2	1	3	○ 研究部主任、指導教員
4/26 （金）	本校の教育目標、経営方針と教員としての使命感	②	講義	1	1	2	校長
4/27 （土）	校内組織と服務規程	①	講義	1	1	2	教頭
5/13 （月）	年間学習指導計画の作成	④	講義	1	3	4	○ 教科指導員
5/13 （月）	授業参観と研究協議Ⅰ	④	授業参観	2	1	3	○ 数学科、教科指導員
5/28 （火）	教材研究の進め方Ⅰ	④	講義	0	3	3	○ 教科指導員
5/28 （火）	授業参観と研究協議Ⅱ	④	授業参観	1	2	3	他教科
6/5 （水）	諸表簿及び公文書の手引き	①	講義	1	1	2	事務長
6/12 （水）	授業参観と研究協議Ⅲ	④	授業参観	1	2	3	他教科
6/25 （火）	示範授業Ⅰ	④	示範授業	1	1	2	○ 教科指導員
7/9 （火）	学習指導案の作成Ⅰ	④	講義・協議	3	1	4	○ 教科指導員
7/11 （木）	研究授業と反省・協議Ⅰ	④	授業研究	1	4	5	○ 数学科、教科指導員
7/12 （金）	生徒の学力の実態把握	④	講義	2	1	3	○ 教科指導員
7/16 （火）	教材の精選と活用	④	講義	1	1	2	○ 教科指導員
7/17 （水）	個に応じた学習指導の工夫	④	講義	1	2	3	○ 教科指導員
7/19 （金）	評価方法と評価規準	④	講義	1	2	3	○ 数学科、教科指導員
7/26 （金）	学校図書館の在り方と利用状況	①	講義・演習	1	1	2	図書部主任、指導教員
7/29 （月）	学校行事と年間計画	①	講義	1	1	2	総務主任
7/29 （月）	生徒指導の現状と課題	③	講義	2	1	3	○ 生徒指導主事、指導教員
8/27 （火）	生徒会活動の現状と運営	①	講義	1	1	2	○ 特活主任、指導教員
9/6 （金）	学習指導案の作成Ⅱ	④	講義・協議	0	4	4	○ 教科指導員
9/10 （火）	教材研究の進め方Ⅱ	④	講義	2	1	3	○ 教科指導員
9/17 （火）	ホームルーム経営上の問題点と留意点①	②	講義	0	2	2	１年部主任
9/19 （木）	本校の教育課程	①	講義	1	1	2	○ 教務主任、指導教員
9/25 （水）	研究授業と反省･協議Ⅱ	④	授業研究	1	4	5	○ 数学科、教科指導員
9/27 （金）	考査問題の作成と評価Ⅰ	④	協議	1	3	4	○ 教科指導員
10/7 （月）	生徒の健康管理	②	講義	1	1	2	○ 保健主事、指導教員
10/7 （月）	学校保健安全と保健組織	①	講義	1	1	2	○ 保健主事、指導教員
10/7 （月）	授業参観と研究協議Ⅳ	④	授業参観	1	2	3	○ 教科指導員
10/7 （月）	学習指導案の作成Ⅲ	④	講義・協議		3	3	○ 教科指導員
10/7 （月）	研究授業と反省･協議Ⅲ	④	授業研究	1	4	5	○ 数学科、教科指導員
10/8 （火）	部活動等の進め方	②	講義	1	1	2	○ 特活部主任、指導教員
10/9 （水）	カウンセリングの在り方	③	講義	1	1	2	生徒指導部、養護教諭
10/9 （水）	問題行動の事例研究と懲戒指導	③	講義	1	1	2	○ 生徒指導主事、指導教員
10/9 （水）	情報機器の活用について	①	講義	1	1	2	○ 情報部主任、指導教員
10/10 （木）	授業参観と研究協議Ⅴ	④	授業参観	1	2	3	他教科
10/21 （月）	授業研修と実施Ⅰ	④	授業参観	2	2	4	○ 教科指導員
11/13 （水）	学力と学習実態の関係と課題	①	講義	0	2	2	○ 教務主任、指導教員
11/13 （水）	授業参観と研究協議Ⅵ	④	協議	1	2	3	○ 教科指導員
11/20 （水）	示範授業Ⅱ	④	示範授業	1	2	3	○ 教科指導員、数学科
12/11 （水）	ホームルーム経営上の問題点と留意点②	②	講義	1	1	2	３年部主任
12/18 （水）	本校の進路動向と進路指導の進め方	①	講義	1	1	2	○ 進路指導主事、指導教員
12/18 （水）	就職者・進学者への援助	③	講義	1	1	2	○ 進路指導主事、指導教員
12/18 （水）	国際情報科の特色と目標	①	講義	1	1	2	情報部主任、国際情報科主任
12/18 （水）	本校６年間のプログラムの理解	④	講義		3	3	○ 研究部主任、教科指導員
1/15 （水）	授業研修と実施Ⅱ	④	授業研究	0	4	4	○ 教科指導員
1/22 （水）	学校祭への参加、意義の理解	③	講義	1	1	2	特活部員
1/22 （水）	学習指導案の作成Ⅳ	④	講義・協議	0	4	4	○ 教科指導員
1/24 （金）	研究授業と反省・協議Ⅳ	④	授業研究	1	4	5	○ 教科指導員
1/29 （水）	学年部の体制とホームルーム経営②	②	講義	1	1	2	２年部主任
2/12 （水）	生徒指導要録の理解と取り扱い	①	講義	1	1	2	教務主任
2/12 （水）	進路実態の把握と進路指導の課題	②	講義	1	1	2	進路指導主事
2/19 （水）	ＰＴＡの組織と運営	②	講義	1	1	2	総務主任
2/19 （水）	考査問題の作成と評価Ⅱ	④	講義	1	3	4	○ 教科指導員
3/9 （月）	授業参観と研究協議Ⅵ	④	講義	1	2	3	○ 教科指導員
3/11 （水）	研修を振り返って	①	講義	1	2	3	○ 研修部主任、指導教員
3/11 （水）	年間の教科研修の成果と課題	④	講義	1	1	2	○ 教科指導員

○印は指導教員が同席

集計表

初任者氏名	実施日数合計	領域ごとの研修時間数				時間割内研修時間計（a）	放課後研修時間計（b）	研修時間合計（a＋b）	主として指導教員が行う研修時間計	主として教科指導員が行う研修時間計	主としてその他の教員が行う研修時間計
		①	②	③	④						
石崎　諒	57	30	16	11	103	57	103	160	31	94	35

①基礎的素養　②マネジメント能力　③生徒指導力　④教科等指導力

平成３１年度高等学校初任者研修「校内研修実施報告書」

初任者氏名　　（　　金野　拓真　　）

実施月日（曜日）	研修内容	領域	研修方法・形態	時間割内・放課後の区別		研修時間	研修指導者	
				内	放			
4/2 （火）	初任者研修オリエンテーション	①	講義	2		2	○	指導教員、研究部主任
4/23 （火）	年間学習指導計画の作成	④	講義	1	2	3		教科指導員
4/15 （月）	授業参観と研究協議Ⅰ	④	授業参観	2		2		教科指導員、保健体育科
4/26 （金）	本校の教育目標、経営方針と教員としての使命感	②	講義	1	1	2		校長
4/27 （土）	校内組織と服務規程	①	講義	1	1	2		教頭
5/29 （水）	授業参観と研究協議Ⅱ	④	授業参観	2		2		教科指導員、保健体育科
6/5 （水）	諸表簿及び公文書の手引き	①	講義	1	1	2		事務長
6/10 （月）	教材研究の進め方Ⅰ	④	講義	1	1	2		教科指導員
6/14 （金）	学習指導案の作成Ⅰ	④	協議	3	1	4		教科指導員
6/27 （木）	研究授業と反省・協議Ⅰ	④	授業研究	1	1	2		教科指導員、保健体育科
7/26 （金）	学校図書館の在り方と利用状況	①	講義		2	2		図書部主任
7/29 （月）	学校行事と年間計画	①	講義		2	2		総務主任
7/29 （月）	生徒指導の現状と課題	③	講義		2	2		生徒指導主事
8/27 （火）	生徒会活動の現状と運営	①	講義	2		2	○	特活主任
8/27 （火）	学習指導案の作成Ⅱ	④	協議	2	2	4		教科指導員
9/13 （金）	学習指導案の作成Ⅲ	④	協議	2	2	4		教科指導員
9/17 （火）	ホームルーム経営上の問題点と留意点①	②	講義		2	2		１年部主任
9/19 （木）	本校の教育課程	①	講義	1	1	2	○	教務主任
9/25 （水）	研究授業と反省・協議Ⅱ	④	授業研究	2		2		教科指導員、保健体育科
9/27 （金）	個に応じた学習指導の工夫	④	講義	1	1	2		教科指導員
10/7 （月）	生徒の健康管理	①	講義	1	1	2	○	保健主事
10/7 （月）	学校保健安全と保健組織	①	講義	1	1	2	○	保健主事
10/8 （火）	部活動等の進め方	②	講義	1	1	2	○	特活主任
10/9 （水）	カウンセリングの在り方	③	講義	1	1	2		養護教諭
10/9 （水）	問題行動の事例研究と懲戒指導	③	講義	1	1	2	○	生徒指導主事
10/9 （水）	情報機器の活用について	①	講義	1	1	2	○	情報部主任
10/11 （金）	授業参観と研究協議Ⅴ	④	授業参観	2		2		教科指導員、保健体育科
10/18 （金）	教材の精選と活用	④	講義	1	1	2		教科指導員
11/5 （火）	教材研究の進め方Ⅱ	④	講義	1	1	2		教科指導員
11/12 （火）	授業参観と研究協議Ⅲ	④	授業参観	1	1	2		教科指導員、保健体育科
11/13 （水）	授業参観と研究協議Ⅳ	④	授業参観	1	1	2		教科指導員、保健体育科
11/13 （水）	学力と学習実態の関係と課題	①	講義		1	1	○	教務主任
11/19 （火）	考査問題の作成と評価Ⅰ	④	講義・協議	2		2		教科指導員
11/25 （月）	示範授業Ⅰ	④	示範授業	1	1	2		教科指導員
12/11 （水）	ホームルーム経営上の問題点と留意点②	②	講義		2	2		３年部主任
12/18 （水）	本校の進路動向と進路指導の進め方	①	講義	2		2	○	進路指導主事
12/18 （水）	就学者・進学者への援助	①	講義	1	1	2	○	進路指導主事
12/18 （水）	国際情報科の特色と目標	①	講義		2	2	○	国際情報科主任
1/22 （水）	学校祭への参加、意義の理解	③	講義	2		2	○	特活部職員
1/28 （火）	学習指導案の作成Ⅳ	④	協議	3	1	4		教科指導員
1/29 （水）	学年部の体制とホームルーム経営	②	講義	1	1	2		２年部主任
1/31 （金）	研究授業と反省・協議Ⅲ	④	授業研究	1	1	2		教科指導員、保健体育科
2/3 （月）	示範授業Ⅱ	④	示範授業	1	1	2		教科指導員
2/5 （水）	ＰＴＡの組織と運営	②	講義		1	1	○	総務主任
2/6 （木）	生徒の学力の実態把握	②	講義	2		2		教務主任
2/6 （木）	授業参観と研究授業Ⅵ	④	授業参観	2		2		教科指導員、保健体育科
2/12 （水）	進路の実態把握と進路指導の課題	③	講義	1	1	2	○	進路指導主事
2/12 （水）	生徒指導要録の理解と取り扱い	③	講義		2	2	○	教務主任
2/19 （水）	評価方法と評価規準	④	講義	1	1	2		教務部職員
2/19 （水）	考査問題の作成と評価Ⅱ	④	協議	2		2		教科指導員
2/27 （木）	研究授業と反省・協議Ⅳ	④	授業研究	2		2		教科指導員、保健体育科
2/28 （金）	授業参観と研究授業Ⅶ	④	授業参観	2		2		教科指導員、保健体育科
3/9 （月）	本校６年間プログラムの理解	④	講義		2	2		研究部主任
3/9 （月）	授業研修と実施Ⅰ	④	協議	2		2		教科指導員
3/10 （火）	授業研修と実施Ⅱ	④	協議	2		2		教科指導員
3/11 （水）	年間の教科研修の成果と課題	④	講義	1	1	2		教科指導員
3/11 （水）	研修を振り返って	①	協議	1	1	2	○	指導教員、研究部主任

○印は指導教員が同席

集計表

初任者氏名	実施日数合計	領域ごとの研修時間数				時間割内研修時間計（ａ）	放課後研修時間計（ｂ）	研修時間合計（ａ＋ｂ）	主として指導教員が行う研修時間計	主として教科指導員が行う研修時間計	主としてその他の教員が行う研修時間計
		①	②	③	④						
金野　拓真	57	29	13	12	67	69	52	121	4	63	54

①基礎的素養　②マネジメント能力　③生徒指導力　④教科等指導力

「初任研を終えて」

石崎　諒

（１）研修を通して得たもの

大きく分けて３つ得たものがあります。１つ目は，研究授業を通して単元に対して新しい知見を得ることが出来たことです。年間で４回の研究授業に挑戦したことで，反省点もたくさん見つかり，次に同じ授業をするときにどのように行えばいいかを考えるきっかけにもなりました。数学の先生方には，研究授業に際し，たくさんの貴重な指導をいただけたことは何事にも代えがたい経験です。

２つ目は，自分が今まで経験したことの無い分掌の話を聞くことを通して，学校の全体像について理解を深められたことです。講師で勤務していた５年間は，年度ごとに高校が変わっていたので，高校の全体像があまりわからないまま，個々の分掌の業務に従事しておりました。各分掌の主任の説明が大変丁寧だったのでとてもありがたかったです。

３つ目は，校外研修を通して様々な刺激をうけることが出来たことです。毎月行われる初任研の教科研修では，小松田指導主事に大変丁寧にご指導いただきました。教科指導に関してだけでなく，普段の授業での悩みや進路指導の仕方についても大変親身になって相談に乗ってくれたことは，大変貴重な経験になりました。

また，中学校数学の初任者と合同で行った「中学校との関連を踏まえた授業づくり」やＰＡ研修なども自分にとって良い刺激になりました。令和元年度の初任者は人数が少なく，同じ教科の同期採用の教員からの刺激というものがありませんでした。しかし，中学校教員の方々の授業を見たり，アドバイスをいただくことを通して良い刺激を頂き，教材研究に向かう活力になったと感じております。ＰＡ研修では初任研の先生方とさまざまな活動を通して親睦を深めることが出来て大変良い研修となりました。

（２）研修を終了しての自分の反省

研究授業を通して，教科指導に関してまだまだ未熟であると感じました。９月２５日に伊藤指導主事と小松田指導主事に来校していただき，また本校の数学科の職員も交えて研究授業を行ったのですが，自分の思い描いたように指導は進みませんでした。また検討会でも指導主事の先生方から「自分では気づけない改善点」もご指導いただき，大変良い経験になりました。今後も積極的に研究授業を実施して，授業改善に取り組んでいきたいと思います。

（３）今後の法定研修についての意見

指導主事・指導教員の方々に，親身になってご指導いただいたので，初任研の指導に当たってくださった先生方に大変感謝しております。また，総合教育センターへの出張やや指導主事来校に際して，時間割編成など職員の方々にご配慮をしていただき，今年度の研修を無事に終了することが出来ました。誠にありがとうございました。

「初任者研修を終えて」

金野　拓真

この１年を通して、教育センターでの研修はもちろん、教科指導をはじめ、生徒指導や部活動指導などの場面においてたくさんのことを学ぶことが出来た。また、校内研修では多くの先生方から学校や生徒に関する講話をしていただき、研究授業ではたくさんの助言をしていただいた。また、本校は中高一貫校であり、６年間を見通して生徒を育てていく環境の中で学ぶことが出来たのも貴重な経験であったと思う。

高等学校新学習指導要領が平成３０年３月に公示され、２０２２年度より年次進行で実施される。今回の改訂では、心と体を一体として捉え、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの実現を重視する内容となっている。教育センターでの教科研修では、新学習指導要領に基づいた年間指導計画や授業計画の立て方、学習目標、学習活動、評価の３つの整合性などを教えていただいた。そして、初任者研修を受講している先生方の各学校での取組を聞いたり、意見交換をしたりするなどして互いに良い刺激をもらうことが出来たと感じている。

研修の中で話題に多くあがったのが、「探究型の授業」である。探究型授業とは、生徒が主体的に活動し、仲間とともに学びを深めていくというものである。授業の初めに目標を提示して本時の学習の見通しを持たせたあとに、ある疑問に対して、まずは一人でじっくりと考える時間を設けて自分なりの意見を持たせる。そしてグループの話し合いや討論を行い仲間の考えに触れ幅広い知見を養い、最後に学級全体で情報の共有を図るという流れだ。保健の授業はもとより体育の授業においても活用できると感じている。毎日の授業をこのような流れで実践しようとしてきたが、授業者の発問の仕方がとても重要になってくると痛感した。この授業では生徒に何を伝えたいのか明確にして、また、話し合い等のグループ活動が正しい方向に導くことのできるような教科指導力を身に付けていきたい。

課題としては、ＩＣＴ機器を活用できなかったということがあげられる。体育の授業の技能において、動きのポイントやコツを説明するだけでは不十分であった。ＩＣＴ機器の活用は、自己の動きをフィードバックすることができて視覚から得た情報で技能の向上を図ることができる。保健の授業においても、映像を用いることで生徒の関心・意欲を高めていきたい。

また、本校は中高一貫校であることから、中学校３年生の保健体育の授業を担当した。中学校で学ぶべき内容と高校で学ぶ内容を区別し、それらを精査して指導することに戸惑いを感じたが、保健体育科内で連携を取り授業を進めることが出来た。そして、中学校と高校のつながりを意識させるために授業内の規律を徹底させるとともに、生徒たちには来年度は高校生になるという自覚を持たせる声かけを常に行ってきた。今後とも６年間で生徒を育てていくという気持ちを持ち続けて生徒の指導にあたっていきたい。

最後に、校長先生、教頭先生、指導教員の先生をはじめ、数多くの先生方にご協力・ご指導いただいたおかげで、今年度の研修を終えることが出来たと感じている。初任者研修は来年度も継続して実施していくわけだが、初任者研修を通じて学んだことを忘れずに、また、さらに多くのことを吸収しながら、教員として自己研鑽に励んでいきたい。

校内年間計画報告書

研修教員：幸坂恭寛（国語・１年Ｃ組担任）	校　長：菅　原　和　久

実施月日（曜日）		研　修　内　容	領域	研修の方法・形態	時間割内・放課後の別		研修時間	研修指導者
					内	外		
4	2 （火）	食物アレルギーについて	生	講話 → 一般研修		2	2	養護教諭
6	6 （木）	教材研究と指導案の作成１	教	授業研究	2	1	3	研究主任・国語科職員
	12 （水）	授業実践に基づく授業研究１	教	授業研究	1	2	3	研究主任・国語科職員
	14 （金）	授業検討会１	教	授業研究		1	1	研究主任・国語科職員
	27 （木）	定期考査の作問と相互助言１	教	授業指導	1	2	3	研究主任・国語科職員
7	1 （月）	学年経営方針の決定と過程	生	講話 → 一般研修		2	2	1年部主任
	18 （木）	特定課題研究の進め方	特	講話		1	1	研究主任
8	6 （火）	本校における教育課程の研究	基	講話		1	1	教務主任
	19 （月）	教材研究と指導案の作成２	教	授業研究	1	2	3	研究主任・国語科職員
	27 （火）	授業実践に基づく授業研究２	教	授業研究	1	2	3	研究主任・国語科職員
	28 （水）	授業検討会２	教	授業研究		1	1	研究主任・国語科職員
9	4 （水）	選択研修の成果と報告	選	講話 → 一般研修	2		2	研究主任
	24 （火）	定期考査の作問と相互助言２	教	授業指導	1	2	3	研究主任・国語科職員
	25 （水）	授業の参観と助言１	教	授業指導	1	1	2	研究主任・国語科職員
10	16 （水）	授業の参観と助言２	教	授業指導	1	1	2	研究主任・国語科職員
11	29 （金）	定期考査の作問と相互助言３	教	授業指導	1	2	3	研究主任・国語科職員
12	25 （水）	特定課題研究の中間報告	特	講話 → 一般研修		2	2	研究主任
1	21 （火）	生徒の目線に沿った生き方指導	生	講話 → 一般研修		2	2	生徒指導主事
1	24 （金）	法規に関する事例研究１	マ	講話		2	2	教頭
2	26 （水）	特定課題研究の成果と評価	特	一般研修 → 講話		2	2	研究主任
	（　）							
	（　）							

実施日数合　計	研修方法・形態別の研修日数（時間数）				時間割内研修時間（ａ）	放課後研修時間（b）	研修時間合計（a+b）
	講話	授業研究	授業指導	一般研修			
20	9 (10)	6 (14)	5 (13)	6 (6)	12	31	43

校内研修計画報告書

研修教員：長崎純一（商業・３年Ｅ組副担任）	校　長：菅　原　和　久

実施月日（曜日）		研　修　内　容	領域	研修の方法・形態	時間割内・放課後の別		研修時間	研修指導者
					内	外		
4	2 （火）	食物アレルギーについて	生	講話 → 一般研修		2	2	養護教諭
6	5 （水）	授業の参観と助言１	教	授業指導	1	1	2	研究主任・商業科職員
	12 （水）	教材研究と指導案の作成1	教	授業研究	2	1	3	研究主任・商業科職員
	18 （火）	授業実践に基づく授業研究１	教	授業研究	1	2	3	研究主任・商業科職員
	20 （木）	授業検討会１	教	授業研究		1	1	研究主任・商業科職員
	25 （火）	定期考査の作問と相互助言１	教	授業指導	1	2	3	研究主任・商業科職員
	27 （木）	特定課題研究の進め方	特	講話		1	1	研究主任
7	3 （水）	学年経営方針の決定と過程	生	講話 → 一般研修		2	2	3年部主任
8	6 （火）	本校における教育課程の研究	基	講話		1	1	教務主任
	18 （金）	授業実践に基づく授業研究２	教	授業研究	1	2	3	研究主任・商業科職員
9	4 （水）	選択研修の成果と報告	選	講話 → 一般研修	2		2	研究主任
	20 （金）	定期考査の作問と相互助言２	教	授業指導	1	2	3	研究主任・商業科職員
	25 （月）	授業の参観と助言２	教	授業指導	1	1	2	研究主任・商業科職員
10	11 （金）	教材研究と指導案の作成２	教	授業研究	1	2	3	研究主任・商業科職員
	23 （水）	授業検討会２	教	授業研究		1	1	研究主任・商業科職員
11	27 （水）	定期考査の作問と相互助言３	教	授業指導	1	2	3	研究主任・商業科職員
12	25 （水）	特定課題研究の中間報告	特	講話 → 一般研修		2	2	研究主任
1	21 （火）	生徒の目線に沿った生き方指導	生	講話 → 一般研修		2	2	生徒指導主事
	24 （金）	法規に関する事例研究１	マ	講話		2	2	教頭
2	26 （水）	特定課題研究の成果と評価	特	一般研修 → 講話		2	2	研究主任

実施日数合　計	研修方法・形態別の研修日数（時間数）				時間割内研修時間（ａ）	放課後研修時間(b)	研修時間合計(a+b)
	講話	授業研究	授業指導	一般研修			
20	9 (10)	6 (14)	5 (１３)	6 (6)	12	31	43

校内年間研修報告書

研修教員	小笠原祐子（美術・２年部副主任）	校　長	菅　原　和　久

実施月日（曜日）		研　修　内　容	領域	研修の方法・形態	時間割内・放課後の別		研修時間	研修指導者
					内	外		
4	2 （火）	食物アレルギーについて	生	講話→一般研修		2	2	養護教諭他
	27 （土）	研修計画の作成について	基	講話→一般研修	2		2	校長・研究主任
5	29 （水）	進路指導のあり方	基	講話		1	1	進路指導主事
	30 （木）	教材研究と指導案の作成(1)	教	授業研究	2	1	3	研究主任
7	8 （月）	授業検討会(1)	教	授業研究	2		2	研究主任・芸術科
	12 （金）	授業実践に基づく授業研究(1)	教	授業研究	2		2	研究主任
	18 （木）	特定課題研究の進め方	特	講話→一般研修	2		2	校長・研究主任
	18 （木）	教材研究と指導案の作成(2)	教	授業研究	1	2	3	研究主任
	23 （火）	学年経営方針の決定と過程	マ	講話→一般研修		2	2	３年部主任
8	5 （月）	選択研修の成果と報告	選	講話→一般研修		2	2	研究主任
	6 （火）	本校における教育課程の研究	基	講話→一般研修	2		2	教務主任
9	2 （月）	教材研究と指導案の作成(3)	教	授業研究	2	1	3	研究主任
	25 （水）	授業の参観と助言(1)	教	授業指導	2	1	3	研究主任・初任研
	25 （水）	授業の参観と助言(2)	教	授業指導	2	1	3	研究主任
10	9 （水）	授業実践に基づく授業研究(2)	教	授業研究	2	1	3	研究主任
	10 （木）	教材研究と指導案の作成(4)	教	授業研究	1	2	3	研究主任
	15 （火）	授業検討会(2)	教	授業研究	2		2	研究主任・芸術科
1	21 （火）	生徒の目線に沿った生き方指導	生	講話→一般研修		2	2	生徒指導主事
	24 （金）	法規に関する事例研究(1)	マ	講話→一般研修	2		2	教頭
2	26 （水）	特定課題研究の成果と報告	特	一般研修→講話		2	2	研究主任

実施日数合　計	研修方法・形態別の研修日数（時間数）				時間割内研修時間計（a）	放課後研修時間計（b）	研修時間合計（a＋b）
	講話	授業研究	授業指導	一般研修			
20	10 （ 10 ）	8 （ 21 ）	2 （ 6 ）	9 （ 9 ）	26	20	46

平成３１年度中堅教諭等資質向上研修

選　択　研　修　報　告　書

所　属　校	大館国際情報学院高等学校	職・氏名	教諭・幸　坂　恭　寛
研　修　先	能代市立図書館		
研修期間	令和　元年　７月２４日（水）　～　令和　元年　７月２６日（金）		

１　研修の概要

○７／２４（水）

８：３０　朝礼・図書館ツアー　　１０：００　座学（分類法）　　１０：３０　拝架、書架整理

１２：００　昼食・休憩　　１３：００　貸出・返却業務

１４：００　装備、修理　　１６：４５　振り返り・研修終了

○７／２５（木）

８：３０　朝礼・開館業務　　１０：００　背タイトルの直し、請求記号の書き直し

１２：００　昼食・休憩　　１３：００　ＰＯＰ作成

１５：００　レファレンス体験　　１６：００　イベント準備

１６：４５　振り返り・研修終了

○７／２６（金）

８：３０　朝礼・開館業務　　９：００　読書感想文教室　　１２：００　昼食・休憩

１３：００　拝架、書架整理　　１４：００　調べる学習体験

１６：４５　振り返り・研修終了

中堅教諭等資質向上研修・選択研修として、能代市立図書館で研修をさせていただいた。３日間という短い期間ではあったが、有意義で中身の濃い、貴重な経験をすることができた。特に３日間、つきっきりで御指導いただいた塚本氏には、本当に感謝している。

初日、図書館に着くと電気は点いておらず、職員の方が薄暗い中で開館業務をしていた。公共図書館ということで、経費を節約するため開館までは電気もクーラーも点けないということであった。朝礼の後、館内の設備や蔵書について説明していただき、分類法の座学を受けた。０類から９類までの内容について、何となくは理解していたが、今回の研修でしっかりと理解、暗記することができた。そして図書館業務で一番多い、拝架、書架整理の仕事を行った。返却された本のチェック、整理を行い、書架に戻して整理するという一連の流れを経験したが、本が重く、想像以上に重労働であった。初日の午後からは本の修理等の作業を体験させていただいた。

二日目は開館業務から体験した。１０紙以上の新聞をチェックし、整理する作業や、館内にあるチラシの日付をチェックする作業など、想像していなかった仕事が多くあった。午後からはＰＯＰの作成やレファレンス体験など、楽しみながら学ぶことがで

きる研修を行った。特にレファレンス体験で問いの解決に繋がる本を見つけられた時の達成感は大きく、アクティブラーニングのようであった。

三日目は「読書感想文教室」のサポートを行った。短い絵本を読み、自分の気持ちを五・七・五で表現するという内容で、小学１～６年生が対象であった。中にはまったく書き進められず泣き出す児童もおり、声かけやサポートに苦慮した。能代市立図書館では乳幼児向けからお年寄り向けまで、地域の方を対象としたイベントが数多くあり、その各年代に対応しなければいけない点に難しさがあると感じた。

普段利用している図書館の仕事を経験し、その大変さや利用者を増やすための工夫、ホスピタリティを感じることができた。公共図書館、学校図書館の違いはあるが、真似できる工夫は積極的に取り入れていきたい。

２　研修の成果（今後への生かし方も含むこと）

公共図書館の利用者はお年寄りと小学生が多く、一番少ないのが高校生ということであった。そのため、公共図書館としては高校との連携に力を入れており、何かしらの形で繋がりを持ちたいということをおっしゃっていた。本校は大館にあるため、能代の図書館との連携は難しいかもしれないが、大館市
の図書館との連携について模索していきたい。また、書架の工夫や展示の工夫など、取り入れられる工夫を積極的に取り入れていきたい。

平成３１年度中堅教諭等資質向上研修

選　択　研　修　報　告　書

所　属　校	大館国際情報学院高等学校	職・氏名	教諭　　長　崎　純　一
研　修　先	株式会社　大館工芸社		
研修期間	令和元年７月２２日（月）　～　令和元年７月２４日（水）		

１　研修の概要

第１日（７月２２日）
7:55～ 8:20　朝礼
8:20～10:00　材料出し、自動かんな掛け
10:10～12:00　木材研磨
13:00～16:00　木材接合
16:00～17:00　社長との面談

第２日（７月２３日）
7:55～ 8:20　朝礼
8:20～12:00　材料出し、自動かんな掛け
13:00～14:00　木地取り
14:00～16:00　木材研磨
16:00～17:00　自動かんな掛け

第１日（７月２２日）
7:55～ 8:20　朝礼
8:20～10:00　材料出し、自動かんな掛け
10:10～12:00　塗装
13:00～15:00　面取り
15:10～17:00　社長との面談

２　研修の成果

私は大館市生まれであるが、父親の仕事の都合で秋田県内を転々としており、実際に大館市に住んだことはなかった。４年前に大館市に異動となったが、自分の故郷でありながら、大館について分からないことが多かった。曲げわっぱについても大館市の伝統工芸品として名前を知っているだけで、どんなものなのか、それがどうやって製造されているのかは分からなかったので、今回大館工芸社を研修先として選択した。

研修をお願いするにあたり、先方から「毎朝行われている朝礼から参加してください」ということだったので、７時５５分から行われる朝礼から参加した。朝礼は社長も含め、従業員全員が参加して行われる。社長の挨拶、３分間スピーチ、準備運動、挨拶返事の確認の後、民間企業が発行しているしおりを読み上げるものであった。全員が姿勢を正し、緊張感を持って臨んでおり、呼吸を合わせて行うことで１日の仕事に向かう気持ちを整えているようだった。また、その際に前日の生産高、生産高の累計、当月の目標生産高までの金額が発表された。

製造工程の中でまず私が担当したのは材料出しと自動かんな掛けである。材料となる木材を乾燥室から出し水分量を計測。１０％未満であればそれを自動かんな掛けした。自動かんな掛けは木材を機械に通すだけだが、木目をはっきりさせる目的があり、今後の作業に大きく関わる大事な工程とのことだった。普段、木材に触れる機会がほ

とんど無いため、手袋をしていても木材の破片が手に刺さり大変だった。次に木材研磨では製品の一部の形になっている木材を機械を使って研磨した。ベルトに木材を並べ、機械に通していく単純作業だったが、手を巻き込まれると大けがにつながる作業であった。木材の厚さは機械で設定するが、誤差があるためその都度ノギスで計測しながらの作業であった。薄くなりすぎると材料として使えなくなるということもあり、慎重に進めなければならない作業であった。その他の工程でも、初めに確認をすると後の作業を任せてもらった。初めての作業ではその都度、確認をしながら進めたが、出来るところは自分で材料の向きや厚さを確認しながら作業に取り組んだ。作業にミスが出るとその後に工程に大きく影響したり、材料をロスしたりと会社にとっては大きなマイナスになることから緊張感を持って作業に取り組んだ。分からないこと、自信のないときは、すぐに確認することの意味と大切さを実感した。

３日間の研修期間中、代表取締役である三ツ倉さんと話す機会があった。三つ倉さんは曲げわっぱを製造するにあたり、材料は秋田杉にこだわっていた。しかし、その秋田杉の資源に危機感を感じ、１５０年後にも曲げわっぱを残すために現在は精力的に秋田杉の植林活動をしているとのことだった。また、これまでと同じ製品だけではなく、常に新製品を考えており、インターネットやインスタグラムを活用して積極的に情報発信した。「曲げわっぱの製造は工芸士による手作りでなければならず、機械では絶対に作れない。技術がどんなに進歩していてもこの曲げわっぱの製造はローテクである。しかし、これをこの先も続けていきたい」という言葉から曲げわっぱに対する熱い思いを感じた。

３日間の研修を通して、私が強く感じたことは、工芸士たちのプライドである。一切の妥協を許さず、真剣に曲げわっぱに向かう姿、姿勢から感じることができた。私も自分に与えられている事に対して、真剣に、誠実に取り組んでいきたい。また、大館市を代表する伝統工芸である曲げわっぱを知ることができ、自分の故郷の魅力を知ることができた。人口減少が進む中で、秋田県の魅力をそして、大館市の魅力を私なりに伝えていきたい。

平成３１年度中堅教諭等資質向上研修

選　択　研　修　報　告　書

所　属　校	大館国際情報学院高等学校	職・氏名	教諭　小笠原　祐子
研　修　先	大館郷土博物館		
研修期間	令和元年７月２４日（水）～　令和元年７月２６日（金）		

１　研修の概要

第１日目【７月２４日】

８：３０～　９：００　常設展の見学、展示資料の説明
９：００～１２：００　作品確認、展示室に並べる
１３：００～１７：１５　作品展示（壁掛け、ケースに入れる）、挨拶文パネル

第２日目【７月２５日】

８：３０～１２：００　展示用ワイヤーの追加、キャプション貼付
１３：００～１７：１５　博物館の資料見学、ニホンザリガニの飼育部屋製作

第３日目【７月２６日】

８：３０～１１：００　芝谷地湿地・長走風穴・鳥潟会館視察
１１：００～１２：００　ニホンザリガニの飼育部屋製作
１３：００～１７：１５　ニホンザリガニの飼育部屋製作

２　研修の成果（今後への生かし方も含むこと）

郷土博物館へ寄贈された、銀座の清澄画廊“清澄コレクション”の展示作業を行った。画廊の田中さんからは、作品は赤ちゃんのように、慎重に、丁寧に扱うこと、と教えていただいた。田中さんはご高齢であるにも関わらず、展示作業中はずっと展示室にいて作業を見守っていて、作品に対する深い愛情を感じた。生徒の作品もこのような姿勢で扱うべきだと感じた。

博物館の職員の方からは、収蔵品について説明していただいた。大館城跡から発掘される伊万里や古九谷などの磁器は、かつて北前船で運ばれたようだ。また、大館でも戊辰戦争の戦いがあったことを展示品から感じることができ、今この瞬間も歴史の一部分であることを実感した。また、文書資料から知り、想像することはできても、実際に物を見て感じることでさらに理解が深まる。授業においても、説明をする他に、実物を見せる効果は大きいと感じた。

また、大館はニホンザリガニの生息地の南限地であるが、そのザリガニも近年は生息が確認出来ない場所もあるような絶滅危惧種である。博物館でも飼育しているが、２匹以上を一緒に飼うと共食いをしてしまうため一匹ずつ分ける必要があり、その飼育用の小部屋を製作した。材料やサイズなど、今は手探りでやっているようだ。何事においても創意工夫することは大事である。そしてザリガニが逃げないように心を込めて丁寧に作ったのだが、誰かのために、何かの役に立つために、と考えながら作る

ことで、いつもより丁寧な作業ができる。これは授業で作品作りをするときにも忘れてはいけないことである。

そして３日目に訪問した鳥潟会館は、現在博物館で最も力を入れているところだ。これまでは専門家による管理がされず荒れていたため、専門家に見てもらい手入れを行っている最中である。貴重な文化財も適切に管理されないと価値のないものになってしまう。日本庭園の魅力を知るとともに、文化を未来へつなげる視点を学んだ。

博物館の仕事は多岐にわたり、職員のみなさんは情熱をもった研究者であるため、多くのことを学ぶことができた。大館の歴史を知り、文化を守り、未来へつなげるという大きな仕事に触れることができた。授業をつくる上でも参考になることがたくさんあり、今回ここで研修をし、貴重な経験ができて本当によかった。

「中堅研を終えて」

幸坂　恭寛

秋田県教職員研修体系の全体構造を見ると、中堅教諭等資質向上研修は第３ステージに属する研修である。振り返ると、第１ステージは「理解と実践」をテーマに初任者研修や実践的指導力習得研修が主な研修であった。第２ステージは「実践と改善」をテーマに教職５年目研修や実践的指導力向上研修がそれにあたる。そして第３ステージのテーマは「推進と充実」である。詳しい目標は「中堅教員としての自覚をもち、積極的に学校経営に参画するとともに、主任等の分掌に必要な役割・職務に関して理解を深め、組織マネジメント能力を身に付ける」とあり、今後は実践的指導力充実期に突入することとなる。

１年間の研修はすべて身になる、充実したものであったが、特に「授業研修」と「選択研修」が印象深い。「授業研修」では他校の教員と協力して１つの授業を作ることとなったが、ともに行った教材研究がとても勉強になった。１人では思いつかないようなことも、話し合いの中で思いつくことがあり、生徒が授業中の話し合いで思考が深まるのと同様の経験をすることができた。また、しばらくできていなかった、多くの参考資料にあたって授業を作るということもでき、とても勉強になった。何より、教材研究を楽しく行うことができたのが印象深い。実際に秋田北高校で行った授業では、時間不足や発問の精選などの課題が挙げられたが、生徒たちの反応は良く、授業の目標は達成することができたと思う。「選択研修」は、公共図書館で社会体験研修を行った。普段利用している公共図書館の仕事を経験し、その大変さや利用者を増やすための工夫、ホスピタリティを感じることができた。公共図書館、学校図書館の違いはあるが、真似できる工夫は積極的に取り入れていきたい。また、公共図書館は学校や地域とのつながりを大切にしている、という話も聞けたので、今後その連携を深めていきたい。

研修教員の到達目標の自己評価において、修了時に「不十分である」があったのが「教育課程の編成」「単元構想」「評価」「情報教育」の項目であった。特に「評価」の項目は、授業研究のたびに自身の課題として挙がってくるものである。学習指導要領の改訂等もあり、変化する部分も多く、いまだに自分のものにできてはいない。今後も自主的に勉強、研修に取り組んでいかなければならない。またＳＮＳが絡んだ生徒指導上の問題が増えている昨今、「情報教育」の重要性もますます大きくなる。今後も研修に参加し知識を蓄えるとともに、クラスや部活動など、自身が担当する分掌において、ルール作りを行うなどの情報教育を行っていきたい。

研修を通して得たものとして、「新たな意識」が挙げられる。これまではまだまだ若手教員の意識であったが、本研修を通して、もう中堅教諭であるという意識をもつことができた。本研修を通してよく聞かれたのが「周りの教員への指導・助言」や「企画・運営」、「マネジメント」という言葉である。どれも上記にある第３ステージならではの言葉であると思う。特に「周りの教員への指導・助言」という事項については、ほとんど意識していなかったことなので、今回の研修で意識して行うことができてためになった。８月の教科研修で実際に「指導助言」を行ったが、さまざまな視点から授業を参観し、良い点、悪

い点をまとめ、話す順番や話し方まで工夫して助言を行うというのは、とても難しかった。これは回数を重ねることで身につく技術だと思うので、今後の研究授業等で実践していきたい。

中堅教諭等資質向上研修では、「授業研修」だけでなく、危機管理やリーダーシップ、服務等の「マネジメント」、いじめや教育相談等の「生徒指導」、特別支援等の「保健」、キャリア教育等の「進路指導」、情報教育等の「情報」、さらには道徳など、さまざまな分掌に関わる内容に触れることができた。これまで経験したことがない分掌について学ぶことができ、とても参考になった。また、経験した分掌に関する部分でも新たな発見があり、勉強になった。可能であれば、「教務」や「総務」、「図書」や「特別活動」など、すべての分掌に関する研修も実施できれば、さらに充実した研修になると思う。私自身の法定研修は間もなく終わるが、今後もさまざまな研修に積極的に参加し、自身の指導力向上に努めていきたい。

中堅研を終えて

長崎　純一

教員として採用されて１０年。振り返ると日々の業務に追われ、目の前のことに取り組むことが精一杯の毎日であった。しかし、時間と経験を重ねるごとに少しずつではあるが余裕を持てるようになった一方で､ある程度のことをこなす自分に甘えている事もあった。そんな中で今回、中堅教諭等資質向上研修講座を受講できたことは私にとって有益なものであった。研修を通して何よりも「意識」を大きく変えることができた。これまではクラス経営や分掌業務、部活動指導など自分に与えられたことを行っていた。しかし、これからは中堅教諭として秋田県教員育成指標の第３ステージとなり、周りの教員に対して専門的な指導･助言を行っていくこと､主任等の分掌に必要な役割･職務に関して理解を深め、組織マネジメント能力を身につけるなど積極的に学校運営に携わっていくことが求められる立場であるということ認識することができた。

教科に関する研修では新学習指導要領にもある「主体的・対話的で深い学び」ついて学ぶことができた。本県の小中学校ではすでに行われており、今後は世界の標準となるとのことだった。主体的・対話的で深い学びを実現するためには明確な授業の目標を提示すること、そして何より深く豊かな教材研究が必要ということでこれからの授業において実践していきたい。能代松陽高校で行われた授業研修では目標達成に向けて生徒がじっくり考え、それをグループで共有。別の視点からの教材を提示しそこからまた各自の考えをまとめるという流れでの授業を行った。時間配分等で課題はあったが概ね授業のねらいは達成できた。

生徒指導に関する研修もまた実り多いものであった。現在の生徒は幼いころから身近にインターネットがあり、スマートフォンなどの情報機器の普及、発達により情報を手軽に収集、発信することができる。ネットの世界という見えにくい中で起こる問題が増えており、それらに対応することが求められている。研修で行われた事例研究会では様々な事象を知ることができた｡また､他の先生と意見を交換することで視野を広げることができた。また、いじめについては些細のことから予期せぬ方向に進み、重大事態に至ることがあることから私たちは他の業務に優先して対応しなければならないことを改めて認識した。また、教育相談は向き合って座った時から始まるのではなく、普段の言動や立ち振る舞いがベースになっているので日々、生徒に対するアンテナを高くしていきたい。

選択研修は大館工芸社で行った。３日間の研修を通して、私が強く感じたことは工芸士たちのプライドである。一切の妥協を許さず、真剣に曲げわっぱに向かう姿、姿勢から感じることができた。私も自分に与えられたことに対して、真剣に、誠実に取り組んでいきたい。また、大館市の伝統工芸である曲げわっぱを知ることができ、故郷の魅力を再発見することができた。人口減少が進む中で秋田県の魅力をそして、大館市の魅力を私なりに発信していきたい。

研修を終えるにあたり、求められている資質能力がすべて身についたわけではない。また、研修修了後の自己評価では、「経営案の作成」、「特別支援教育」、「学校図書館の活用」などにおいて不十分であると感じている。このことについては日々の授業、業務での取り組みと積み重ね、そして研修等への積極的な参加によって身に付き、深められていくことである。これからも深い専門的知識と幅広い教養、生徒理解のための研修を積み重ねるとともに、そこで得たものを自分のものだけでなく積極的に発信していきたい。そして、こ

れからの時代を生きていく子供たちが、様々な変化と積極的に向き合い、問題を解決し、多様な人々と共同しながら新たな価値を創造していく力を育むことができるよう日々努力していきたい。

中堅研を終えて～特定課題研究の報告～

小笠原　祐子

本校に赴任してから８年間ずっと国際教育に携わっているが、状況は赴任当初とは大きく変わってきている。これまでの交流を一度振り返るいい機会として、本校の国際教育を中堅研特定課題研究のテーマに選び、レポートにまとめた。

まず、韓国姉妹校交流について、８年前から変化しているものを考えた。

生徒：以前の参加生徒は英検２級に合格するような英語能力の高い生徒が多かったが、今回の交流に参加した生徒は英検３級もしくは４級の英語能力であった。ただ、外国の人と積極的にコミュニケーションをとろうとする行動力や、独学で韓国語を勉強する意欲は高かった。

親の意識：韓国でホームステイをしたら自分の家庭にホームステイさせるというのが基本なのだが、韓国へは行きたいが自分の家にホームステイはさせたくないという家庭があった。今後もこのような家庭があった場合に備え、対応策を用意しておかなければいけない。

国際情勢・外部要因：以前は秋田空港と韓国仁川空港間で直行便があり、人々の行き来もそれなりにあったように記憶している。しかし現在日韓関係は悪く、また、予算面でも直行便があった頃は県からの補助金も出ていたが、直行便がなくなるに伴い、補助金もなくなった。渡航にあたり、航空運賃や燃油サーチャージも上がってきており、家庭の負担が大きくなっている。

９年目を迎えた韓国姉妹校交流だが、非常に良好な交流を続けることができていて、生徒たちはもちろん、教員同士も互いの国の教育に関して語り合うなど、有意義な交流になっている。この交流の成功には周りの先生方との連携も不可欠だった。英語科の先生方はもちろん、各主任や担任の先生方にもいろいろサポートしてもらった。姉妹校交流に限らず、本校の国際教育活動は学校の大きな特色の一つであり、ひとつの分掌だけで行う交流ではなく学校全体で取り組むものである。生徒や学校を取り巻く環境が変化している以上、いつまでも同じことを同じように続けていくことはできない。今回の中堅研の研修でも学んだことだが、学校にもマネジメントが必要で、ニーズに合わせ学校も変化させていくことが求められている。

修学旅行でシンガポールに行った際は、英語での問いかけにもすぐに反応する生徒が多く、現地のガイドさんにも褒めていただいた。シンガポールに行ったことで将来は毎年海外旅行をしようと話す生徒もいて、とにかく一度外国に行くことで、外国に対する抵抗がなくなったようだ。今回の韓国姉妹校交流後の生徒や保護者アンケートにも、相手は韓国に生まれ育っただけで、日本の高校生と何も変わらなかったという意見が多く、外国人に対する偏見も少ないことがわかった。本校は、もともと国際交流に興味・関心のある生徒が多く入学している。そのような生徒の意欲や保護者のニーズに、どのように応えていけるのか、今後も考えていかなければならない。保護者の意見は貴重だが、批判的な意見に左右されず本当のニーズを把握し、学校組織に生かしていくことが求められる。

本校の卒業生でも、海外で仕事をしていたり海外ボランティア等で活躍している生徒もおり、世界に目を向けなくてはいけない時代であると感じる。海外へ行かなくても、将来秋田や大館のインバウンドのために活躍する生徒もいるだろう。今の高校生がいずれ大人になり、国際関係に関わる仕事に就いたとき、日韓や世界の架け橋になってくれると信じている。本校の国際交流も、改善を図りながらコツコツ続けることがよりよい世界を築くことにつながるのだろう。本校の現状を前向きにとらえ、今回の研修で得たことを活用して今後の取り組みに生かしたい。